

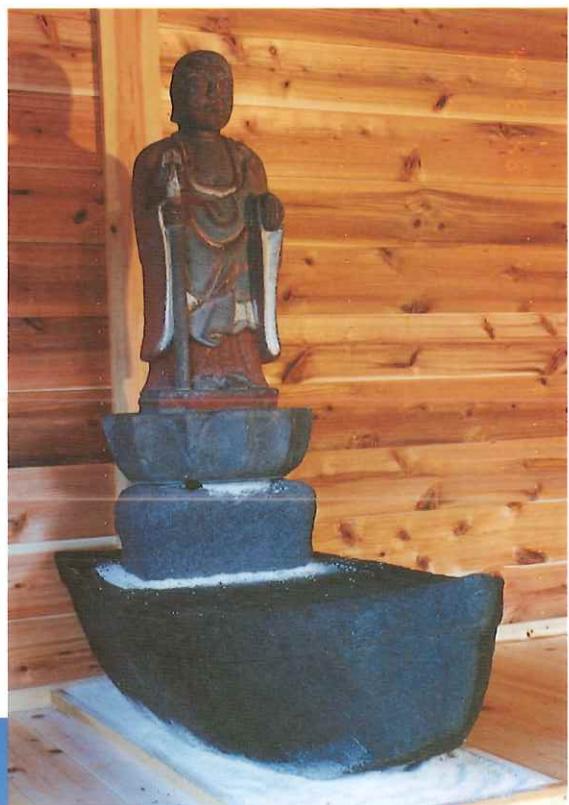
福野の

不思
物

中



須山・不動明王(雲霧) 寛政 3 年(1791)



今里・地蔵菩薩(岩船地蔵)



須山・庚申塔 寛文4年(1664)

例 言

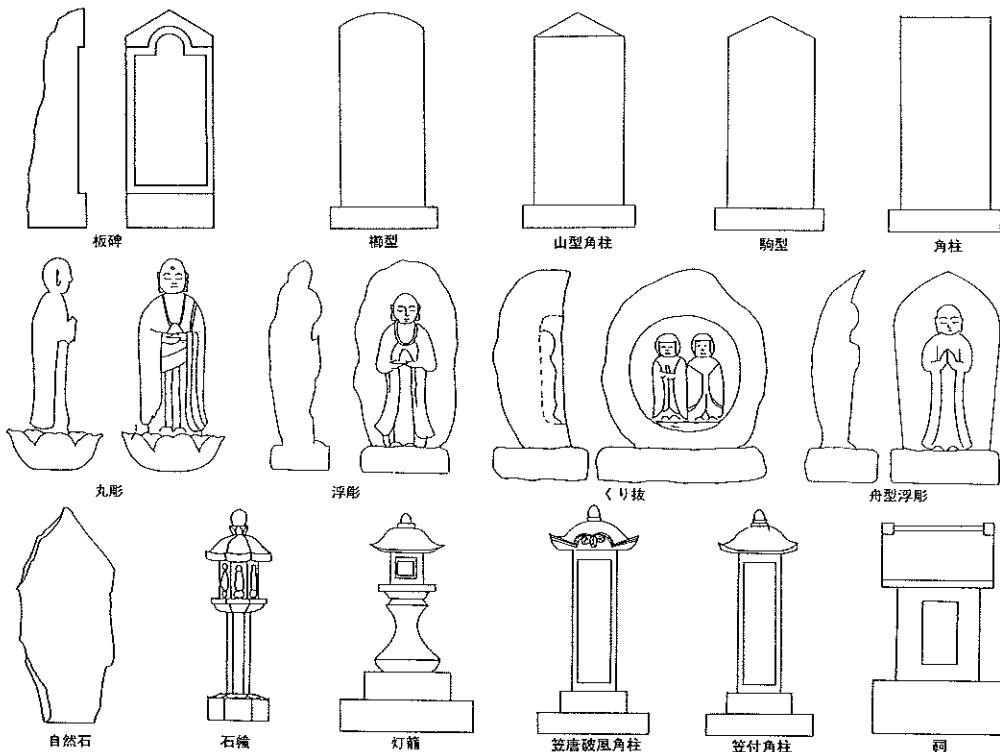
一 本書は裾野市史編さん事業の一環として行われた、石造物悉皆調査の報告書中巻である。はじめ上下二巻に収録する計画であったが、下巻に収録する予定の石造物の数量が多いため、下巻を地区別に中、下巻に分けたうちの中巻である。本巻は裾野市北西部の須山（十里木）・下和田・今里・金沢・御宿・上ヶ田・葛山・千福の須山・富岡地区の石造物を収録した。

二 石造物のうち墓塔、屋敷神、個人の信仰に属するものは除き、民間信仰に關係するものを調査の対象とした。中世の石造物もすべて収録した。ただし一部はすでに調査し報告してあるものがある。

三 石造物調査表、個別写真、図版像に付されている番号は、各地区の石造物分布地図中の「①」の中の番号を示す。ただし「5」「2」のような枝番をもつものは、「⑤地点の2番めの石造物」を示したものである。枝番は原則として右側から左側へ、手前から奥への順に付されている。

四 石造物調査表の「種類」とは、石造物の「名称」もしくは「分類」を意味し、石造物を建立するもとになった信仰内容が明確なものは、極力それによって分類し、信仰内容が不明なものは、像容、形態の面から石造物を分類した。風化、欠損して信仰内容、像容、形態等が明らかでない石造物は「不明」と表記した。

五 形状として示した主要なものは下図の通りである。野面を残した割石、切石は自然石の範疇仲間に含めた。野面を残し



六 法量は全高×全幅とし、共通の土台に乗るものは本体の法量とした。

七

調査表の銘文欄の（正）は正面、（右）は正面の右側面、（左）は同じく左側面、（背）は同じく背面（裏側）、（台座正、同右、同左、同背）は台座の銘文位置を示す。

八 銘文は原刻文を記録した。ただし旧字体については固有名詞（人名、地名）以外は一部新字体で記録した。略字、換字、宛字、異体字、行書、草書字体、くずし字等についても利用の観点から常用漢字などに改めたものもある。風化、欠損、欠落等によつて読みとれないものは、□ □ □で表わし、推定できたものは□の中に入りその文字を入れた。

九 同一石造物に二つ以上の異なる信仰内容の銘文が記されている場合には、その石造物の種類、名稱は正面の右側の銘文にある信仰内容をもとに分類した。また年号が二つ以上あるものについては、造立年号の古いものから順次記入した。

十 補野市の巡礼巡拝供養塔は、その大半が「順礼」「順拝」のよう

に刻されていることから、本書でも「順礼順拝供養塔」と表記した。またその特徴をより明らかにするため、觀音信仰にもとづくものを「順礼供養塔」、信濃善光寺や四国八十八カ所巡りなど觀音信仰以外のものを「順拝塔」として区分した。調査表の順礼供養塔のうち「(西)」と表記されたものは西国三十三カ所順礼の意味であり、同様に「(坂)」は坂東、「(秩)」は秩父、「(横)」は横道の各三十三カ所（秩父は三十四カ所）順礼を表わしている。

また順拝塔の「(善)」は善光寺、「(四)」は四国八十八カ所、「(湯)」は出羽湯殿山大権現の各順拝を表わしている。

十一 灯籠は神社、寺院などの信仰の対象となるところに建てられたものを石灯籠とし、地方的特徴をもつ秋葉信仰に関係するものは

「秋葉山供養塔」とし、常夜塔と刻銘のあるものはその刻銘を種類名稱とした。

十二

信仰面から分類した石造物のうち、像容をもつものは備考欄にその像容を記した。

十三

調査は昭和六十三年から平成七年にかけて、考古部門の中野国雄、石田義明、瀬川裕市郎が実施し、民俗、近世部門の杉村一齊、岩田重則、松田香代子、伊東誠司が加わり、山本けい子、長田文代が調査及び調査個票の整理を担当した。さらに市史編さん室及び静岡県立裾野高等学校郷土研究部、ほか関係諸機関の協力を得た。

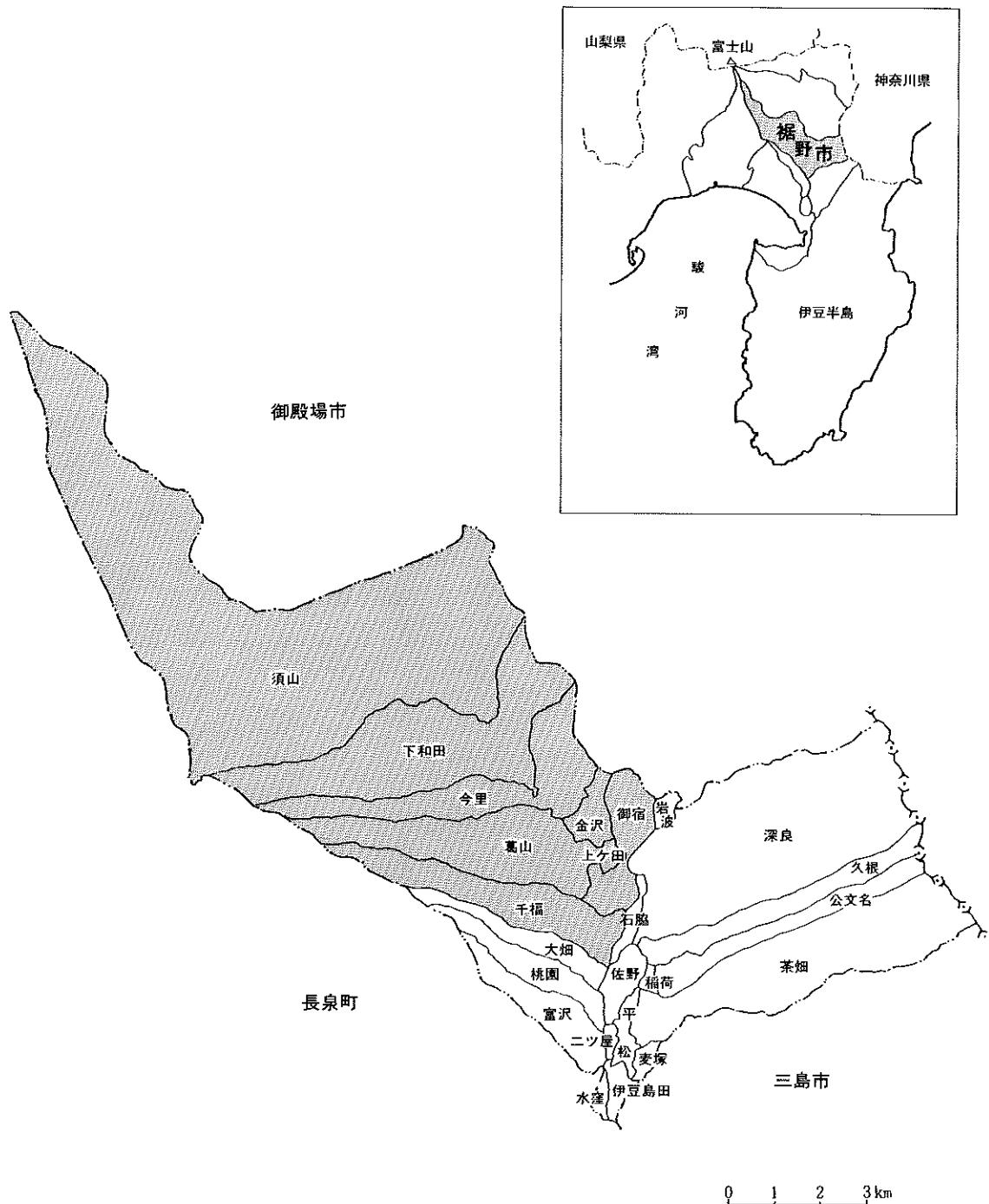
十四 写真、図版、分布図は永野武信が担当した。
十五 引用、参考文献は末尾に記載した。

目 次

(五) 金沢地区	石造物の分布図 ······
	石造物写真・図版 ······
	石造物一覧表 ······
	石造物点描 ······
(六) 御宿地区	石造物の分布図 ······
	石造物写真・図版 ······
	石造物一覧表 ······
	石造物点描 ······
(七) 上ヶ田地区	石造物の分布図 ······
	石造物写真・図版 ······
	石造物一覧表 ······
(八) 葛山地区	石造物の分布図 ······
	石造物写真・図版 ······
	石造物一覧表 ······
(九) 千福地区	石造物の分布図 ······
	石造物写真・図版 ······
	石造物一覧表 ······
(一) 須山地区 (I)	石造物の分布図 ······
	石造物写真・図版 ······
	石造物一覧表 ······
	石造物点描 ······
(二) 須山地区 (II)	石造物の分布図 ······
	石造物写真・図版 ······
	石造物一覧表 ······
	石造物点描 ······
(三) 下和田地区	石造物の分布図 ······
	石造物写真・図版 ······
	石造物一覧表 ······
(四) 今里地区	石造物の分布図 ······
	石造物写真・図版 ······
	石造物一覧表 ······
(五) 堀野市北西部地区の概要	堀野市北西部の位置図と地区名 ······
	堀野市北西部地区の概要 ······
(六) 調査地区	調査地区 ······
	調査地区 ······
(七) 例言	例言 ······
	例言 ······

(五) 金沢地区	石造物の分布図 ······
	石造物写真・図版 ······
	石造物一覧表 ······
	石造物点描 ······
(六) 御宿地区	石造物の分布図 ······
	石造物写真・図版 ······
	石造物一覧表 ······
	石造物点描 ······
(七) 上ヶ田地区	石造物の分布図 ······
	石造物写真・図版 ······
	石造物一覧表 ······
	石造物点描 ······
(八) 葛山地区	石造物の分布図 ······
	石造物写真・図版 ······
	石造物一覧表 ······
(九) 千福地区	石造物の分布図 ······
	石造物写真・図版 ······
	石造物一覧表 ······
(一) 須山地区 (I)	石造物の分布図 ······
	石造物写真・図版 ······
	石造物一覧表 ······
	石造物点描 ······
(二) 須山地区 (II)	石造物の分布図 ······
	石造物写真・図版 ······
	石造物一覧表 ······
	石造物点描 ······
(三) 下和田地区	石造物の分布図 ······
	石造物写真・図版 ······
	石造物一覧表 ······
(四) 今里地区	石造物の分布図 ······
	石造物写真・図版 ······
	石造物一覧表 ······
(五) 堀野市北西部地区の概要	堀野市北西部の位置図と地区名 ······
	堀野市北西部地区の概要 ······
(六) 調査地区	調査地区 ······
	調査地区 ······
(七) 例言	例言 ······
	例言 ······

裾野市(北西部)の位置図と地区名



0 1 2 3 km

裾野市北西部地区の概要

今回、裾野市内の石造物報告書中巻に収録した地区は、市の中央部を干曲して流れる黄瀬川の五竜ノ滝より北西側の旧富岡村と同須山村に属した千福・御宿・上ヶ田・葛山・金沢・今里・下和田・須山（十里木）、地区である。

これらの地区を地形の上からみていくと、大きく二つの地域に分けられる。その一つは大野原といわれている広大な富士山東南麓の裾野一帯で、大部分はカヤの原野であるが一部に雜木が混生しており、また市名ともなつたところもある。さらにこの末端の金沢・上ヶ田・御宿あたりは樹枝状に分岐した小さな深い谷が入り込み、馬背状の小丘陵が連なつて複雑な地形を形成している。

この小丘陵の脚部には小さな湧水地があり、この湧水を生活の拠点とした縄文時代の遺跡が丘陵上に点在している。そのなかでも金

沢上川遺跡はこの時代の初め頃から中頃まで、数千年に涉って生活が営まれ、出土した土器や石器の数も数万点に及び、市内の代表的な遺跡の一つであつたが開発のため消滅してしまった。縄文時代の終り頃、この地区は大規模な土石流と近隣の火山の噴出物の影響を受け人跡は殆んど絶えてしまふが、四・五世紀以後の土師器片が所どころに出土するので、再び人の活動が始まるのはこの頃からと思われる。

いま一つは愛鷹山麓の地区で、主峯の位牌岳から東南へ分れたいく筋かの尾根の末端に、隠れ里のような小さな入谷状の平地が連続しているが、この山麓をめぐつて黄瀬川に合流する佐野川の深い溪

谷があり、富士山麓の広大な裾野と区切られている。愛鷹末端の尾根上には、箱根山麓と同じようには平坦な台状地形をなしたところがあつて、こうしたところにいくつかの縄文時代遺跡が存在している。それらの中で千福細野沢・葛山田場沢裏山遺跡からは多くのこの時代の遺物を出土している。また須山大坂からは地表下三メートルのところから縄文土器の破片が出土し、数年前人の生活の痕跡があつたことが知られている。その後の様相は明らかではないが、葛山下条、同一色原からは四世紀代から作られ日常生活に使われた土師器が多量に出土しているので、この頃から山麓の開けた入谷や平坦地に、人々の生活が再開されていったとしてよからう。しかし水利の不便などころなので、初めは畑作が生産の主体であつたろうと思われる。いまは植林となつて出土した場所は定かでないが、須山滝ノ沢というところから、七世紀代から九世紀にかけて日本の東北地方から関東地方にかけて分布する「わらび手刀」が出土しており、この頃、東日本の影響を受けたのではないかと考えられる。

地区全体の古代の様相は資料が断片的であつて明らかでないが、江戸時代の後期に作られた駿河記などの文献によると、須山から南の千福までの村々はかつて鮎（藍）沢御厨領であったと記してある。この鮎沢御厨領というのは建久三年（一一九二）に作られた伊勢神宮領注文写によると、伊勢神宮の神領で、古代末の十二世紀にはすでに成立していたとする。これによつて少なくとも平安時代末頃には、すでにこの地区にいくつかの集落が形成され、神宮領に編入されていつたということがわかる。このうち嘉暦二年（一二三二七）には「あいさへの御くりやのうち下和田」が、尼聖禪から孫の南部行宗に譲り渡されている。この地区の近世の石造物に、鮎沢御厨金

沢村などと刻まれた銘文があるのをみると、神領であつたというこの伝承が江戸時代まで残つていたのであろうか。

鮎沢御厨領の成立と相前後して平安時代の末頃から鎌倉時代にかけて、葛山を中心として土地名を姓氏とした葛山氏が現われてくる。これは文献の上だけでなく、先年、土塁に囲まれた葛山居館跡の遺構を確認するための試掘調査を行つたところ、十一世紀平安時代末から十六世紀戦国時代に涉る中国産及び国内産の陶磁類が出土し、約四百年の長期間こゝに質の高い生活が営まっていたことが明らかとなつた。また葛山氏系図には、その初めの頃に「行弁平山律師 弥三郎」「惟重御宿殿」「景宗上田殿云」「惟清金沢殿」「惟清女子中里小二郎泰親母」「惟清女子金屋宮原領主」などの姓名が記載されているが、平山は千福地区のなかにある地名で、こゝに築かれた通称千福城跡は平山といい、戦国時代の御宿氏の城であつたともいわれている。そのほか御宿・上田・金沢・中里・金屋・宮原は、現在の地名と共に通しており、平安時代末から鎌倉時代にかけて、葛山氏一族がこれらの地区を大きく開発して領域とした可能性が高い。しかし葛山氏と御厨領との関係は明らかでない。これらの地区的開発には水利が必要であるが、上ヶ田・御宿・千福を潤すカラウト堰・御宿古堰・千福堰また金沢の溜池などの原形は、この頃に成立したのではないかと考えられる。葛山には十四世紀後半の葛山氏に係わるものとされる宝篋印塔、五輪塔がある。

たしかな文献や物的な証拠はないが、古代から中世にかけて富士郡の南部から北東へ向つて神戸、今宮、勢子辻を経て、富士山と愛鷹山との鞍部十里木を越え、須山に出で北東の鮎沢（御殿場）御厨へ至る通路があつて、この道は駿河路や足柄路の脇道で十里木道ま

たは十里木越え、後世、十里木街道といったという。源頼朝はこの道を卷狩に利用し、十里木に残る頼朝井戸や御本陣・勢子辻などはこれに関連する地名であるという。富士川を岩渕あたりで渡河してから、甲斐の郡内（都留郡）や相模の足柄へ行くには、十里木越えをした方が確かに距離的には短かい。そうすると須山の集落は十里木道の交通上の要衝で、鮎沢や横走駅と南の葛山や佐野方面へ下る分岐点つまり辻所であり、西側の富士市勢子辻（セコつまり狭い所、山に挟まれた辻所であろう）と相対のところとも考えられる。下和田にある正徳三年（一七一三）の順礼供養塔銘文に須山のことを深山と刻してあるから、この時点では深山村ともいつたことが判る。このことから承久元年（一二一九）、源頼朝の甥阿野時元が幕府に反乱を起した時に、吾妻鑑では「城郭を深山に構う」とある深山を須山であろうとする説もある。

中世後半になると富士山浅間信仰（後の富士講）が盛んとなり、須山の浅間神社もその拠点の一つであつたと考えられ、後に須山登山道も開かれていく。十里木道は富士郡から鮎沢御厨、郡内と創立の古い浅間神社に通じており、富士山道者道としても利用された形跡がみられる。

中世を通して地区の大部分は葛山氏の支配領域であつたが、その末期の戦国時代後半に入ると、甲斐武田氏の攻撃にさらされるようになる。天文十四年（一五四五）には千福まで南下しているが、永禄十一年（一五六八）から元亀二年（一五七一）までの侵攻に際しては、葛山氏は武田氏に加担して独立性を失つていく。代つて小田原北条氏の手が一時入るが、天正十年（一五八二）までは武田氏の支配下にあつたと思われる。こうした動乱期に備えたのか今里では、

この時期に隠し埋蔵されたと思われる約六千枚以上の銭貨が発見されている。天正十年、武田氏滅亡後の動向は明らかではないが、天正十七年（一五八九）前後には徳川家康の配下に置かれている。

いまは何事も無かつたような静かな山麓地帯であるが、これまで述べてきたように、古代から中世末までの間にさまざまな経緯のあつたことが知れるのである。

ところで天正十八年（一五九〇）に徳川家康が関東へ転封になると、この地区は駿府に入った中村氏領となるが、家康が慶長八年（一六〇三）に開幕すると、以後は幕府の天領（直轄領）となり、寛永十年（一六二四）の頃から千福・上ヶ田・葛山、金沢は旗本領・御宿・今里・下和田、須山（十里木を含む）は小田原藩領に分割されしていく。

次にこれらの村々の生活の基盤となつた農業の生産高をみていくと、江戸時代中期以降の史料によると、千福は村高四四六、六五三石、うち水田高の占める割合は六七%、御宿は村高三八六、四五〇石に対して水田高の占める割合は六六%で、両村共に水田の占める割合が多く田場所の村といつてよい。これは両村共に灌漑用水は古くから黄瀬川水系の千福堰と御宿古堰からであるが、その上流から取水するカロウト堰からの用水が御宿の中央から西側の水田に広く掛り、その余水は下つて千福用水に合流して南側の広い水田に掛つていて、水量が豊かであったことによる。勿論この豊かな水は寛文十一年（一六七一）にほど完成した深良用水の黄瀬川加水によるものと考えられるが、これを御宿村でみると水田高二五三、一八七石に対し、寛文十一年以降の畠成田が一〇三、一四六石にも及び、この畠成田の石高は千福の約六倍弱、金沢の約二五倍、上ヶ田の二倍

もあつて、深良用水の最も恩恵に浴した村といつてもよからう。

上ヶ田は高一五八、六一四石のうち水田高の占める割合は三六%，葛山は高四二〇、〇四四石もあるが、水田高の占める割合は僅かに二六%で低く、金沢も高一〇九、四九七石のうち水田高の占める割合は二七%で、この三村も深良用水掛りであるが水田は極めて少なく、三村合せても一七六、六八五石、面積も一四町八反五畝二〇歩しかない。前に述べたように上ヶ田、葛山、金沢は御宿と共に、中世以来、葛山氏に関わるところであろうしたが、水田の少ない理由は葛山の入谷の平坦地以外は富士山麓の用水源の乏しい土地柄による。

さらに愛鷹山麓に位置する今里・下和田・須山の三村をみると、水田を造成し米を作るに必要な用水源は殆んどなく、生活用水を確保することが重要な事柄であった。これは葛山の入谷を潤す大久保川以外は、水量の少ない澗沢が多いことによるものと考えられる。この三村について、延宝五年（一六七七）の下和田村、貞享三年（一六八六）の須山、今里村から支配側へ提出された村明細帳によつてみると、今里は高九三、一四一石、下和田は高九三、七九八石、須山（この時点では深山といつていい）は高一四九、二九一石あり、下和田の新田九畝歩（二七〇坪）以外はすべて烟である。この烟でどんな作物を作っていたかは記載されていないので明らかでないが、通常考えられる作物として陸稻、麦類、アワ、ヒエ、キビ、ソバなどがあるが現在作られているトウモロコシ、サツマイモ、ジャガイモ、そのほか桑と養蚕は後世のものであろう。年貢は明細帳の記載によると米（陸稻米か）であったと思われる。このほか三村の納めた物品として薪、蘆、繩、糠糞、鶴たいまつ（かやを束にしたような

もの)、わらび、正月用御かざりの漆葉、柿渋、鳥もち、やまいも、さかき、屋根ふき用のかやなどがあり、山村に課せられた山年貢といふものであろうか。また炭を焼いて竹之下(小山町)へ出し、これは八〇俵一両の値段で引取つてもらつてゐる。

農作業のあい間に薪を取つて、沼津や三島に売りに行き、下和田では山に生えている櫟、杉そのほかの雑木はどんな木でも、竹やカヤまでも伐つたり刈つたりして沼津や三島へ売り出して稼としていると記してある。ところでこの時点で三村の家数と家畜数をみると、今里で家数三九軒で馬六一頭、同じく下和田では家数二八軒で馬一〇一頭、須山では家数一二〇軒で馬一四〇頭、牛三〇頭が飼れており、平均すると一軒あたり馬一、五頭飼っていたということになる。

下和田では馬匹数が特に多く一軒当たり二、六頭もあつて、この馬を駒のある時は、相当の値段で召上げられたとある。

使つて山の産物を売りに出していたのである。また三村とも二歳さきに中世須山の項で富士山道者についてふれたが、須山村明細帳によると「当村は昔から富士山南方寺といつて、駿州や豆州より富士山参詣の道者信者の宿泊所としてきており、駿豆の国内には富士参詣を勧誘するためには拠点となる所(且那場という)があつて、毎年そこを廻つて道者を集めている」とあり、村全体がこれに取り組んでいたことがわかる。駿河記やその他の文献によると、須山には浄土宗須本山天巖寺という寺院があるが、貞享三年の村明納帳には本寺の記載がないので後世の創建であるうか。現在この寺院がないのは、明治四年(一八七二)の神仏分離の政策により一村すべて神道に帰属したことによるという。これは富士山信仰の村であったことによるものであろうか。

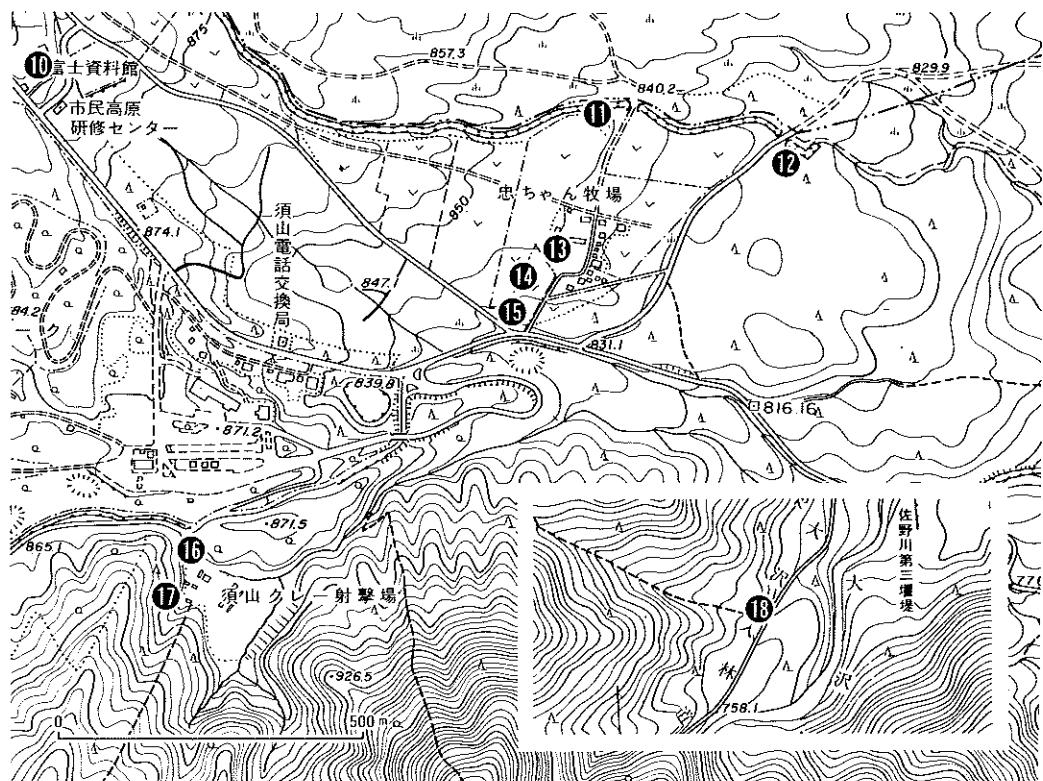
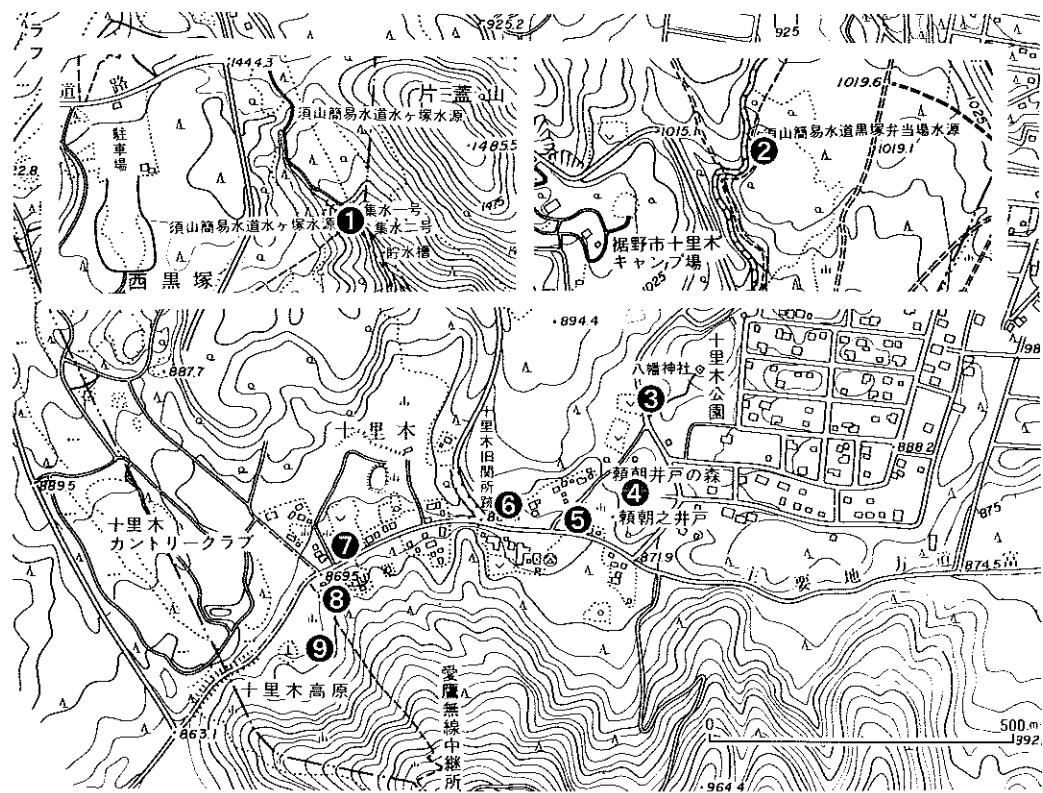
明治に入ると下和田、今里、金沢、葛山、上ヶ田、御宿、千福の村々は富岡村に組み込まれ、須山は十里木を併せてそのまま須山村となり近代化の道を歩むことになる。このなかで両村とも換金できるものとして養蚕が盛んとなり、作物では茶、サツマイモまた半常食用としてトウモロコシが栽培されるようになつた。スギ、ヒノキの植林、伐採、製材も基本産業の一つとなり、農閑期には炭焼も行われたという。しかし近代化が著しく進行するのは戦後である。

(中野国雄)

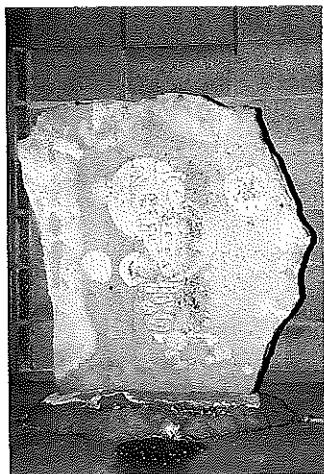
引用参考文献

- 駿河記 駿国雑誌 静岡県駿東郡誌 捩野市史第一卷資料編考古、同第二卷資料編古代・中世・同第六卷資料編深良用水、同第三卷資料編近世の資料須山、下和田、今里村明細帳(近世部会提供による) 捩野市史報告書第三葛山居館跡確認調査概要 捩野市教育委員会市史編さん室、「深良用水の沿革」静岡県芦ノ湖水利用組合、「角川地名大辞典22静岡県」角川書店

須山地區 I



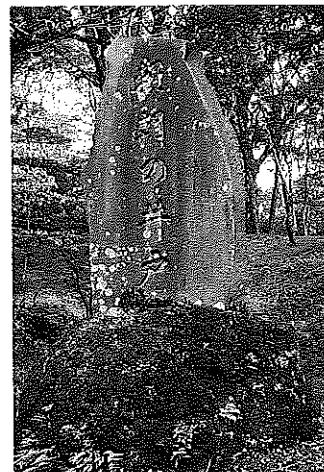
須山地区 I



2 水神塔



1 碑（水ヶ塚水源）



4-1 碑（頼朝の井戸）



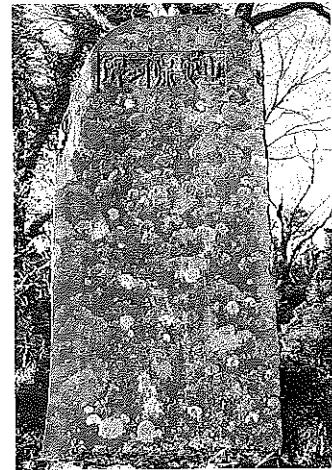
3-2 石灯籠



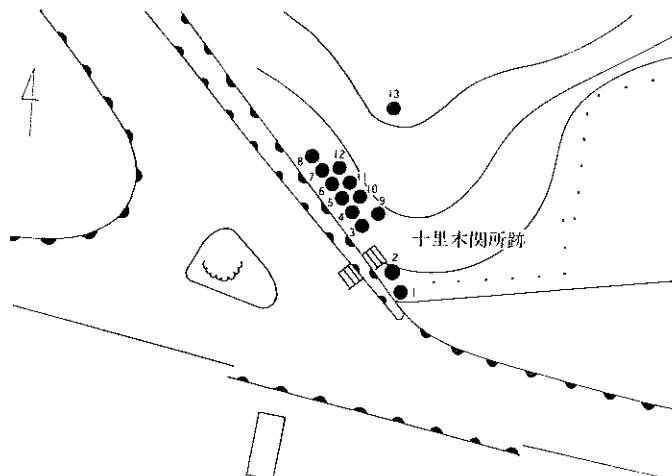
3-1 石灯籠



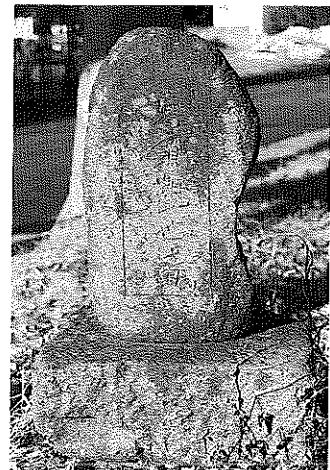
4-3 文学碑（句碑）



4-2 碑（土地保有）



6 十里木旧關所跡



5 馬頭觀音



6-1 碑（關所跡）



6 十里木旧關所跡



6-4 順禮供養塔（橫）



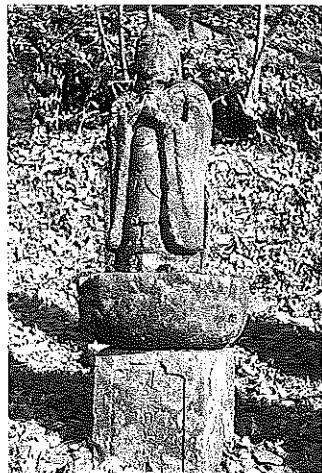
6-3 地藏菩薩



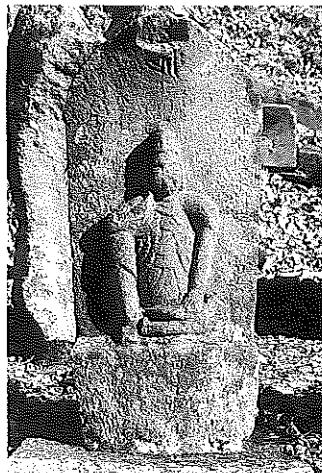
6-2 馬頭觀音



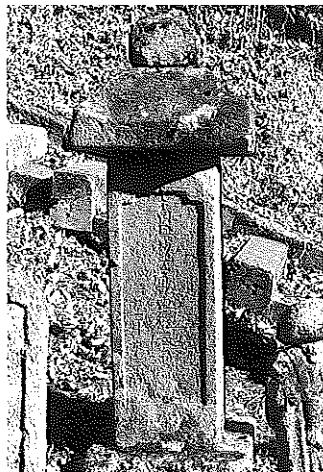
6-7 地藏菩薩



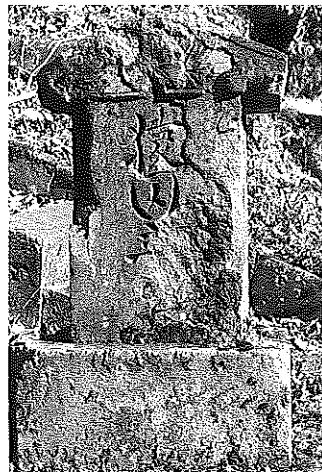
6-6 聖觀音



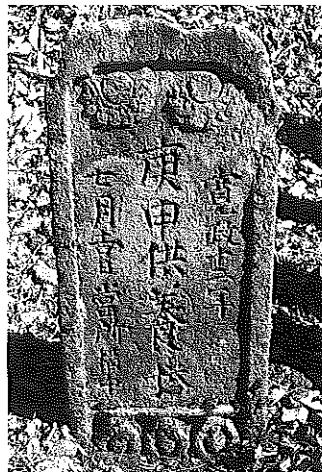
6-5 如意輪觀音



6-10 題目塔



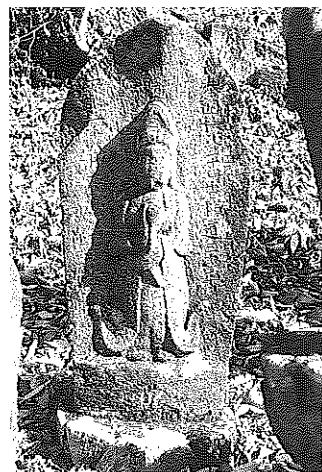
6-9 庚申塔



6-8 庚申塔



6-13 石造物（不明）



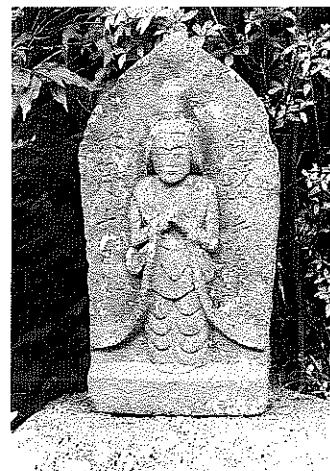
6-12 順禮供養塔（秩・横）



6-11 庚申塔



8 馬頭觀音



7 馬頭觀音



9 文學碑（歌碑）



10—1 文學碑（歌碑）



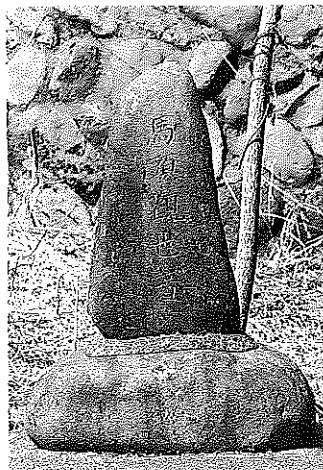
10-4 道 標



10-3 石造物（不明）



10-2 不動明王（雲霧）



13 馬頭觀音



12 水神塔



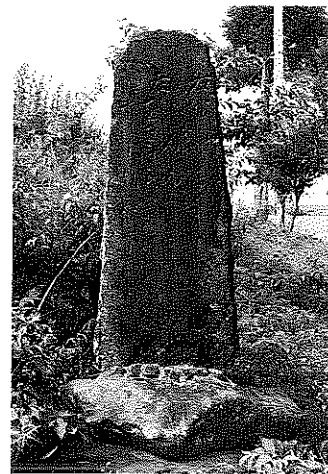
11 水神塔



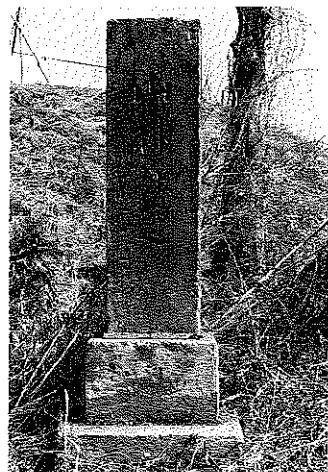
14 文學碑（歌碑）



17 不動明王（雲霧）



15-1 道 標



15-2 道 標



16-3 諸神（龍爪神）



16-2 諸神（龍爪神）



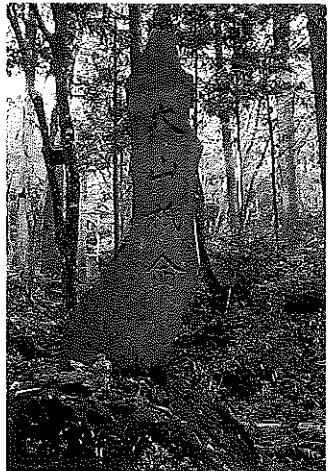
16-1 鳥獸供養塔



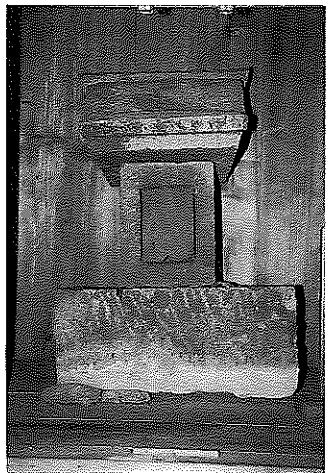
18-3 諸神（地神）



18-2 石造物（不明）



18-1 山の神塔



18-4 山の神塔（石祠）

須山地区工石造物一覧表

番号	種類	形状	造立年	法量(cm)	銘文(備考)
1	碑(水ヶ塚水源)	自然石	昭和7(一九三二)	139×70	別記1(20頁)
2	水神塔	自然石	明治43(一九一〇)	92×81	(正) 水神宮 (背) 水路開設記念 左詔各組 起工明治四十三年十二月一日 竣工全年十二月三十日 原組三十九戸 津土井組十九戸 馬場組九戸 新井上組八戸 新井下組六戸 横町組十二戸 渕組十三戸
3	石灯籠	灯籠	昭和45(一九七〇)	196×70	(正) 献燈 (背) 昭和四十五年十月吉日 相模原市相原 横山 武
4	石灯籠	灯籠	昭和45(一九七〇)	201×69	(正) 献燈 (背) 昭和四十五年十月吉日 相模原市相原 横山 武
5	碑(頼朝の井戸)	自然石	昭和48(一九七三)	262×168	(正) 頼朝の井戸 (背) 昭和四十八年十一月二十五日 捩野市觀光協会建之
馬頭觀音	文學碑(句碑)	板石	昭和6(一九三一)	211×128	別記3(21頁)
自然石		板石	昭和53(一九七八)	206×363	別記2(20頁)
				53×33	(正) 馬頭觀世音 (一部欠落)

番号	種類	形狀	造立年	法量(cm)	銘文	(備考)
6—1	碑(関所跡)	板石	昭和48(一九七三)	128×61	(正)十里木旧関所跡 (背)昭和四十八年六月 大昭和觀光株式會社 十里木区	
6—2	馬頭觀音	舟型立像	大正5(一九一六)	69×34	(正)大正五年 橫山忠作 (舟型上部欠落)	
6—3	地藏菩薩	丸彎立像		55×32	(背)爲無緣法界菩提也 青山仁左衛門 六月廿一日 (頭部丸石補修)	
6—4	順礼供養塔(横)	櫛型	寛政12(一八〇〇)	59×38	(正)横道供養 寛政十二年申七月吉日 施主つる (一部欠落)	
6—5	如意輪觀音	舟型座像	享保4(一七一九)	74×46	(正)奉拜十里木村老若男女 爲現當一世安樂也 (台座正)維時享保四 四月廿八日 (舟型上部欠落)	
6—6	聖觀音	丸彎立像	享保9(一七二四)	94×36	(台座正)奉日記待供() (台座右)享保九年辰年 荻() 同() 同() 勝() (台座左)九月十一日 田代() 清山() 口城() 同() (台座土中埋没)	
6—7	地藏菩薩		(正)文化壬申年 四月吉日 (風化)	57×35	(正)○○庚申供養塔 寛政十二年 七月吉日 當所講中 (一部欠落・下部埋没・三猿浮彫)	
6—8	庚申塔	船型立像	文化9(一八一二)			

番号	種類	形状	造立年	法量 (cm)	銘文 (備考)
6-9	庚申塔	笠付角柱	弘化2(一八四五)	70×44	(正)猿田□□ (右)弘化乙巳歳 (左)九月大吉日 (風化)
6-10	題目塔	笠付角柱	延宝6(一六七八)	120×42	(正)南無妙法蓮華經奉勸請諸大善神 延寶第六午十一月廿三日 (右)願以此功德普及於一切我等與衆生皆共成佛道 (左)所願具足心大歡喜 一町十里木十三人施工也 (宝珠欠落)
6-11	庚申塔	自然石	享保4(一七一九)	106×47	(正)庚申供養石塔 享保四亥年 五月初八日 施主 孫左衛門 仁左衛門 (左)三左衛門 杉山三左衛門
6-12	順礼供養塔(秩・横)	舟型立像	安永3(一七七四)	80×33	(正)奉納秩父二十四番横道三十三番 安永三年八月十八日 (左)横山善九良 同源七 (舟型一部欠落/聖観音)
6-13	石造物(不明)	自然石			
9	馬頭觀音				
8	馬頭觀音	舟型立像	寛政12(一八〇〇)		
7					
274 × 220	文化碑(歌碑)	舟型立像	寛政3(一八〇六)	95×59	(正)寛政十二年六月十日
自然石					
平成6(一九九四)					(正)文化丙寅年五月十八日
274 × 220	別記4(21頁)				

番号	種類	形状	造立年	法量(cm)	銘文(備考)	14	13	12	11	10-4	10-3	10-2	10-1	
文学碑(歌碑)	馬頭観音	水神塔	水神塔	道標	石造物(不明)	不動明王(靈務)	文学碑(歌碑)							
自然石	自然石	自然石	自然石	自然石	浮彫座像	浮彫座像	自然石							
昭和54(一九七九)	昭和4(一九一九)	明治36(一九〇三)	明治36(一九〇三)											
210 × 287	70 × 50	52 × 36	114 × 87	56 × 23	37 × 27	64 × 43	119 × 144	(正)なびき寄る雲のすがたのやはらかきけふ富士が嶺の ゆふまぐれかな牧水	(上部折損)裾野市立富士山資料館内 (正)山神道 富士郡藤岡村 施主 渡辺良吉 七八〇山口屋 (裾野市立富士山資料館内)	(正)馬頭観世音 昭和四年一月 杉山重作建之	(正)水神宮 明治卅六年十一月十九日 須山村字久保郷氏子上水神社 (正)不二のねのふもと蒼原はてもなしくわくこう鳴くと 耳そはたてつ順(背)山口弁当場にて昭和卅八年七月廿日 川田順 昭和五十四年十一月四日 富士山に学ぶ会建設 石工吉川正嗣	(正)水神宮 昭和卅六年十一月十九日 須山村字久保郷氏子上水神社 (正)不二のねのふもと蒼原はてもなしくわくこう鳴くと 耳そはたてつ順(背)山口弁当場にて昭和卅八年七月廿日 川田順 昭和五十四年十一月四日 富士山に学ぶ会建設 石工吉川正嗣	(正)馬頭観世音 昭和四年一月 杉山重作建之	(正)馬頭観世音 昭和四年一月 杉山重作建之

番号	種類	形狀	造立年	銘文	(備考)
15-1	道標	自然石	明治39(一九〇六)	別記6(21頁)	
15-2	道標	角型	明治14(一八八二)	別記7(22頁)	
16-1	鳥獸供養塔	自然石	昭和54(一九七九)	(正)鳥獸之碑 (背)昭和五十四年五月吉日建之 須山獅友会	
16-2	諸神(龍爪神)	祠	明治35(一九〇二)	(右)明治三十五年三月三日建之 (左)須山村中世話人 勝又春吉 渡邊巳五郎 杉山熊次郎 中村國吉 杉山宗三郎	
16-3	諸神(龍爪神)	祠	61×42	187×155	151×94
17	不動明王(雲霧)	寶政3(一七九一)	60×35	(左)口延季 鐵砲講中	
18-1	山の神塔	舟型立像	96×45	(台座正) 寛政二辛亥 八月吉辰 (中央部割れ目)	
18-2	石造物(不明)	自然石	昭和35(一九六〇)	(正)大山祇命 杉山權作謹書 (背)昭和三十五年七月十七日奉納 宮崎義兼 長田建設	
53×26		159×47			

番号	種類	形狀	造立年	法量(cm)	銘文	(備考)
18-3	諸神(地神)	祠	昭和3(一九二八)	49×34	(右)昭和三年坂田貝一	
18-4	山の神塔(石祠)	祠		66×45		

別記1

碑(水ヶ塚水源)

(正) 水原碑 水ヶ塚水源碑 従四位勲四等渡邊方謙篆額
須山村ノ地古來飲料水ニ乏シク頗ル困難ヲ極ム明治六年勝田三平翁等黒塚ニ湧泉ヲ發見水利ヲ計畫ス爾來苦心研究ノ結果其源ヲ水ヶ塚ニ発シ潛流シテ黒塚ニ注ク本村ノ生命泉タルヲ確認越テ明治四十三年舉村一致運水工事施行漸ク宿望ヲ逐ク顧レハ發端既ニ六十年記念ノ爲地主共有權者ノ雅量ニ因リ水ヶ塚ニ町歩黒塚三町ノ安定ヲ圖ル茲ニ沿革ノ大要ヲ錄シ以テ後世ニ傳フ

昭和七年八月 杉山權作撰 渡邊俊雄書

(背) 功労者 勝田東平 渡辺郷作 渡辺正五郎
菅沼甚作 渡辺惠格 渡辺政藏 渡辺富平
野田佐十郎

建設者 須山村 幹施者 須山村長土屋淺治

百十三戸共有總代菅沼甚作 全役員土屋文作

合中村重作 全杉山栄次郎 全土屋富作

消防組頭土屋鋪作 保勝會專務理事渡辺徳逸

別記2 碑(土地保有)

(正) 土地保有碑 土地保有之碑 元大審院判事從四位勲四等渡邊方謙篆額 十里木部落ハ富士足高ノ山間ニ挾マリ官有林ニ圍繞セラレ住民生活ノ安固ヲ期スル能ハス明治九年東北一帶ノ官有地拂下ノ恩典還禄士族ニ下ル須山村戸長勝田三平翁此ノ好機ヲ捕ヘ轉買シテ十里木財政ノ基礎ヲ固ムルニ幹旋セラレ遂ニ時ノ公民十名平等出資之ヲ買得シテ宿望ヲ達セリ爾來人民總代横山源吉横山國藏横山友吉横山幾太郎等管理中核土地ヲ分筆シテ各獨立ノ所有ト爲シタルニ所有權ハ續々他町村民ニ移轉シ憂慮ニ堪ヘサルヲ以テ之力防止善後策ヲ協議ノ結果宇藤原二千二百五十五番ノ二十六山林三百七十九町九反三畝一歩ノ土地ハ表面上代表人ヲシテ所有權者トナシ他ハ實際ノ地上權者トナリテ各持分ヲ支配スル事ヲ決議シ之ヲ實行シテ保有セリ明治三十二年横山竹松所有權代表人トナリ統一管理ス昭和六年更ニ代表人ヲ増員シテ十里木部落將來ノ安定ヲ計ル冀クハ郷祖勝田翁ノ素志ヲ尊重シ各自持分ノ權利ヲ永遠ニ保有シ

テ共存共榮ノ實ヲ挙ラレン事ヲ茲三部落有権者團結一

致ヲ以テ碑表ヲ建立ス

昭和六年十二月二十八日

杉山權作撰 渡邊俊雄書

(背) 所有権代表人 横山忠作 横山仁策 横山第次郎

建碑發起人 十里木區長横山利枝 横山直枝

横山鶴吉 横山幸作 田代由平 横山浅次郎

青山由太郎

贊助員 横山十吉 渡辺久雄 □ 横山栄作

横山春衛 横山治作 横山真平 横山竹次郎

武井輝太郎

石工 駿東郡小泉村 廣瀬博 刻

別記3 文學碑(句碑)

(正) ほとゝきす 朝は童女も 草を負ふ 秋桜子

(背) 水原秋桜子先生が昭和三十四年六月二十日 十里木探

鳥会に於てお作りの句を書いていただき先生のお出でを得て建設除幕式を行つた。

昭和五十三年十月一日 胡野市文化協会

別記4 文學碑(歌碑)

(正) 帝壇咫尺躡虛通 落木峰頭眼界空 群嶂彩衣齊跪拜
天邊一嶽玉玲瓏

(背) 乙亥暢月旬ハ愛鷹連峰越前嶽頂頭仰富岳仰逾高犀東

(背) 國府犀東は宮内省御用係の漢詩人昭和十年十一月十八日文部省嘱託にて名勝地調査のため越前岳に登り富士

別記5 水神塔

(正) 水神宮 明治三十六年十二月十九日

祭主浅間神社々司 渡辺豊次郎

世話人 渡辺豊次郎 萩田仲蔵 杉山佐吉

氏子 藤田仲蔵 全利三郎 全第一次郎 横山辰三郎

全金次郎 全佐吉 萩田七藏 渡辺己五郎 枝山梅藏

渡辺謙蔵 全兵作 全豊吉 全寅蔵 全福蔵 全善策

全豊次郎 全雪城 全新作

(背) □□□□□ハ本社氏子ニ無之ニ付同家子々孫々又ハ

分家ニ至ルモ本水用ユル事ヲ得ス

別記6 道標

(正) 右 すやまへ十八丁

左 いんのへ一り十五丁 をぎはらへ二り四丁

すばしりへ四り二丁

(左) 十りぎへ廿四丁

(背) 日露戰爭ニ付直道ニ進ムト云フ事ヲ聞テ

ふめい登盤 きゝておと路く よの中ハ
神尔ちかいて 祈る我身そ

山を迎いで其の感想を七言絶句に残し岡田紅陽はこの富士山を撮影して昭和十三年五十銭紙幣の図案に採用された

平成六年十一月三日 富士に学ぶ会建之

市川石材店 十里木建築 施工

明治三十九年 富士郡吉永村富士岡花守
「仁」 仁藤春耕

別記7

道標

(正) 山神社道 右須山村迄十八丁 是ヨリ二里八丁

(左) 明治十四年九月十七日建之

(台座正) 駿河國富士郡杉田村 世話人 上杉常七
照山正行 渡辺新作 渡辺重作 稲葉平作
勝俣又右衛門 渡辺彦兵衛 渡辺清兵衛
上杉彌右衛門 同郡天間村 井出茂右衛門
駿東郡須山村 山口國歌吉

裾野の石造物点描

須山 雲霧不動（17）

のお不動さんの先の小祠を含んだ地名のようである。特に「富士宮むかし語り」には見えないが、このお不動さんは村山からの山伏の修行、おそらく富士講の行者の修行の場とはと関わっていないだろうか。富士山資料館が保管する御殿場市の幕岩の雲霧不動には、「役の行者」にまつわる言い伝えも残されているという。

また、この地区は昔から霧に悩まされていて、特に四月下旬から七月下旬の盆明けまでは、雨や一寸先も見えないほどの霧の日が連

須山の富士サフアリパークの西側に沿う県道富士裾野線から僅かに西へ入った傾斜地には、須山クレー射撃場があるが、その真上の小径の交差点にこの不動明王像は存在する。地元ではお不動さんと呼ばれているようで、さらに高位置にある祠へお参りの際、手を合わせる人も多いという。

この不動明王の存在が明らかになつたのは、一九九四年の暮れのことらしい。たまたま同地のクレー射撃場関係者が、そこに埋もれているのを発見したことに始まる。それまではその存在すら気づかれていなかつた。実際には富士講の御師に問わる住人の多い地域柄、仏の化身である不動明王の存在は無視されていたということであろう。

「富士宮むかし語り」（遠藤秀男・一九七五）を見ると、かつて山伏（法印）であった秋山芳季さんの話が紹介されている。山伏の修行は富士山中の靈場を巡る参拝と呪法の体得という厳しいもので、村山（富士宮市）を出發し、富士山のお鉢廻りをすませ、印野から北畠、一杉を経て何日めかには須山の大日堂に二晩泊まり、翌日洞川という山頂に奉られた小祠を参拝してから、木の枝をたわめた上に、目隠しされた新参の山伏がのり、枝の反動で空中に飛ばすといふ修行を行つたという。その山頂の洞川というところが、どうもこ



続し、農作業などに不便をきたすほど霧には悩まされている。そうした状態を須山では「霧さぶる」と呼んでいるという（静岡県史資料編二四）。

松田香代子氏によれば、御殿場市の南部から裾野市、三島市の一部にかけて天道念仏が行われた村々が集中し、裾野市内では旧六月八日に行う村がほとんどであるという（裾野市史研究 六）。

この念仏はオテントサンネンブツとかヒネンブツなどとも称され、深良では「天気が良くなるよう、梅雨が明けるよう・・・」（前掲、裾野市史研究）ご利益が期待されて念仏講が開かれた。

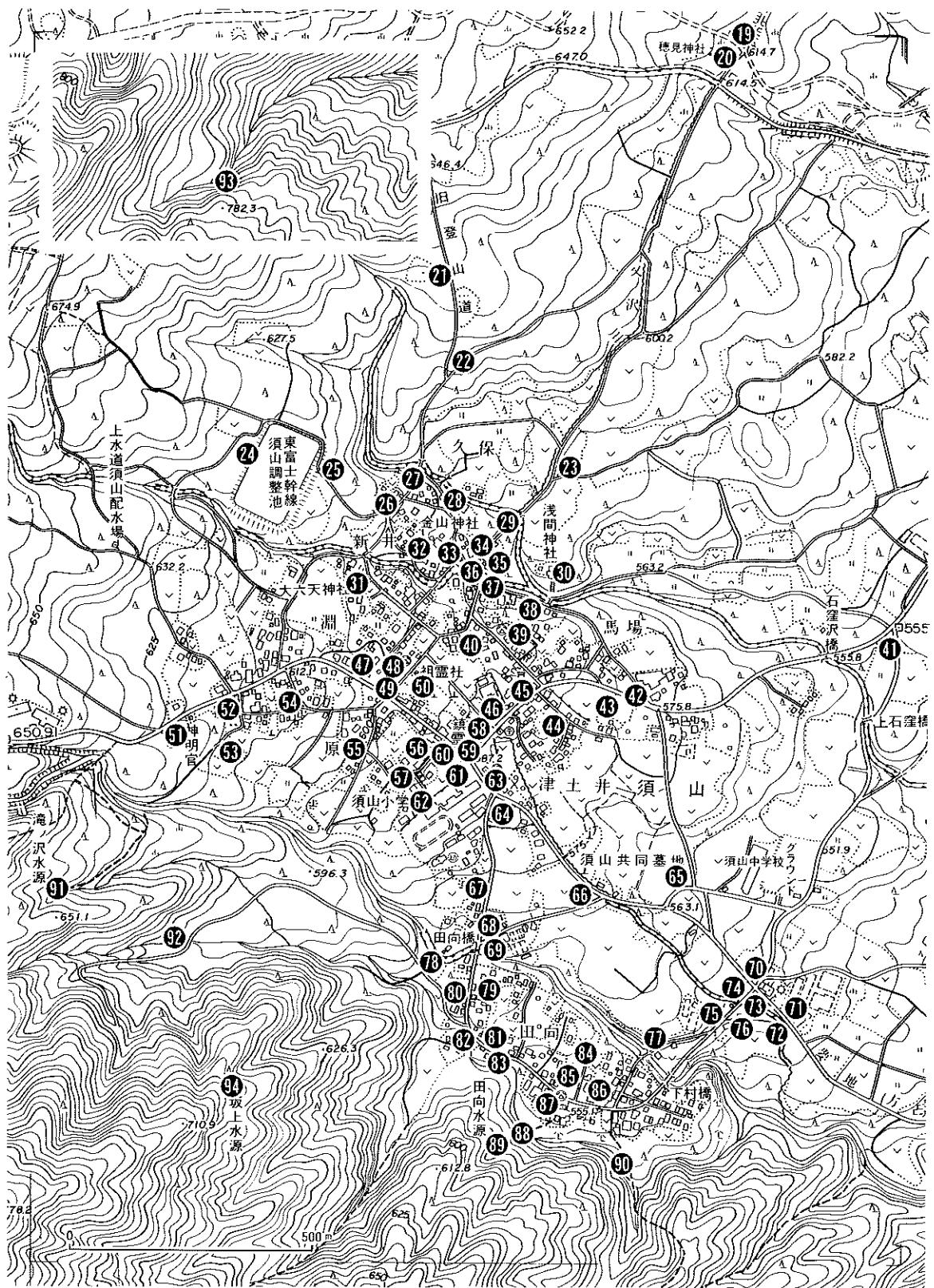
この念仏に雨乞いや日乞いの期待が込められていれば、むしろ臨時に開かれる方が分かりやすいが、念仏の期待の中に、霧明けの期待も含まれていれば興味もわく。

神道との関係からか、この念仏講は須山では痕跡を残していないというが、霧への悩みでは共通するものと思われる。

須山の不動明王がなぜまつられ、なぜいつの間に忘れ去られたのだろう。かつて富士講の行者でにぎわったことを考えれば、それとの関わりがもつとも理解しやすい。また一方、御殿場などに残された雲霧不動が霧からの解放を願つたということを考慮すると、同じように霧に悩んであらう村人の信仰も忘れることができない。

（瀬川 裕市郎）

須山地区 II



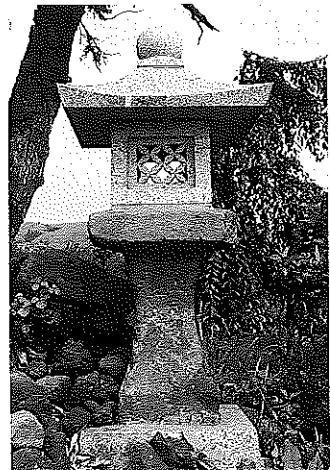
須山地区 II



19 石神神社



19-2 諸神（石神）



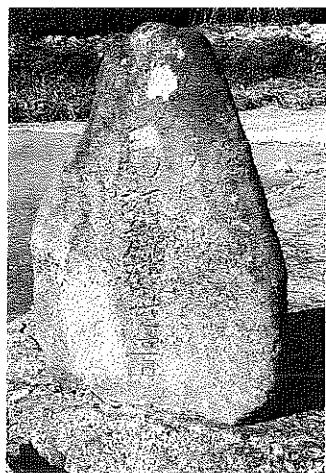
19-1 石灯籠



20-2 鳥居



20-1 神社標石



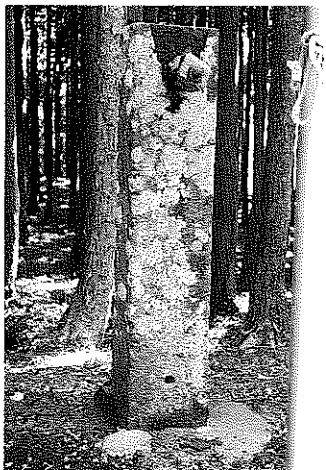
23 馬頭觀音（道標）



22 道祖神



21 馬頭觀音



25-1 檻 立



24 碑（水源造成記念）



25-3 手洗石



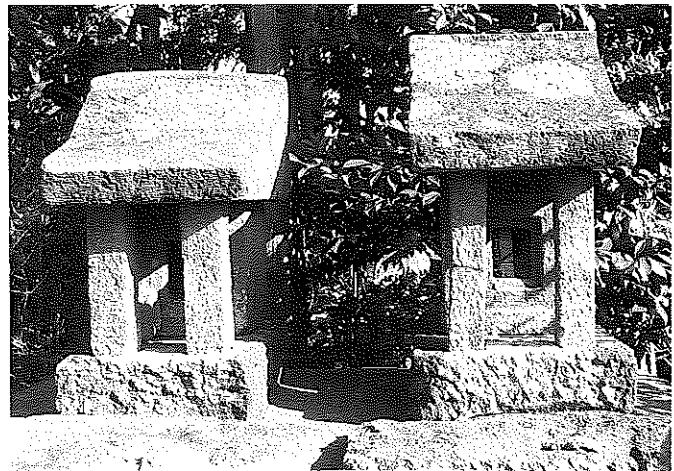
25-2 石燈籠（部分）



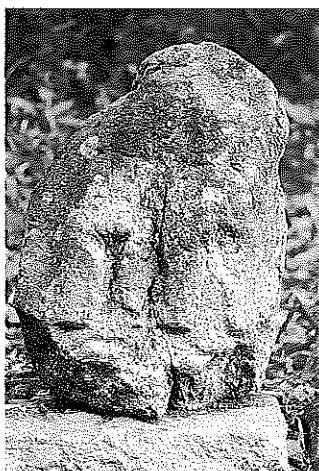
27 道祖神



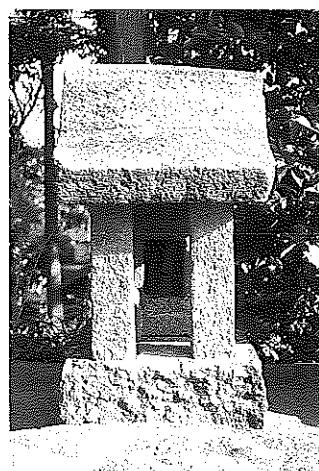
26 馬頭観音（道標）



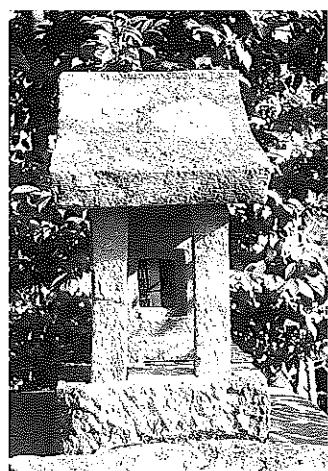
28 須山474 渡辺氏邸前



29 道祖神（部分）



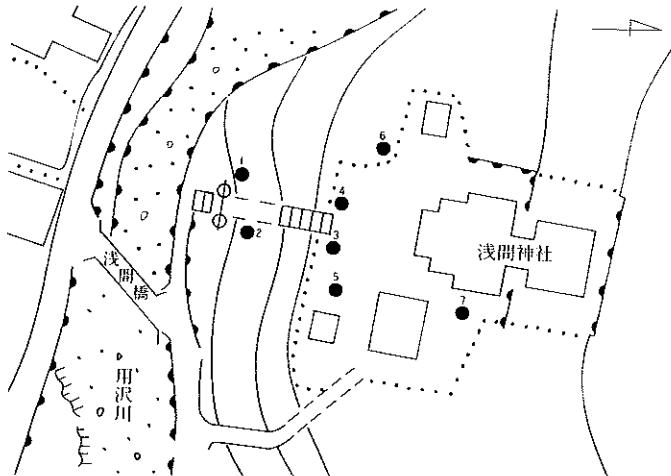
28-2 諸神（稻荷神）



28-1 山の神塔（石祠）



30-1 神社標石



30 浅間神社



30-3 常夜塔



30-2 手洗石



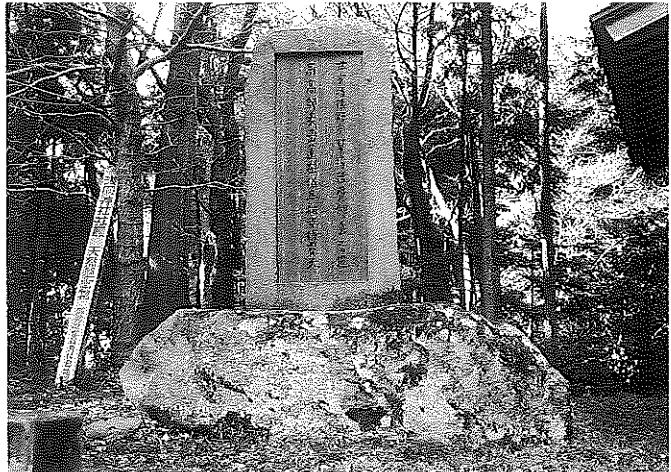
30-5 手洗石



30-4 石灯籠



30-7 碑（戦役記念）



30-6 文学碑（漢詩碑）



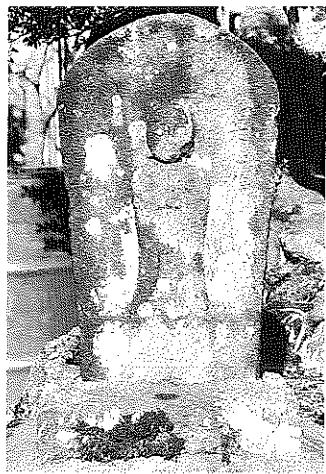
31-2 手洗石



31-1 常夜塔（部分）



31-4 石造物（貯水槽）



34 地藏菩薩



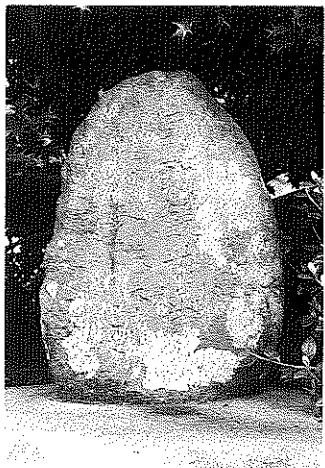
33 馬頭觀音



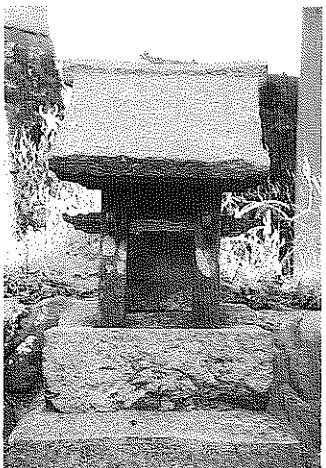
32 馬頭觀音



36 馬頭觀音



35 馬頭觀音（道標）



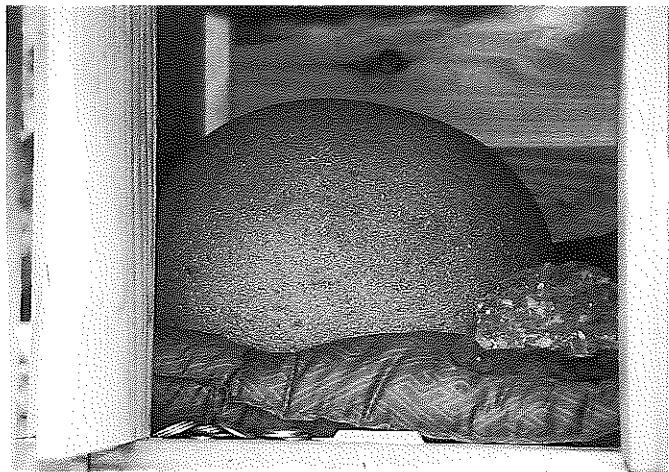
37-2 石祠（山の神・稻荷神）



37-1 碑（非常用水奉納）



38-2 馬頭觀音



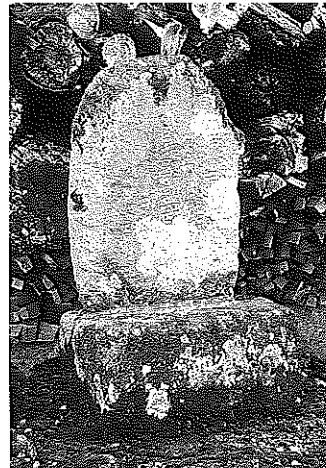
38-1 諸神（地神）



41 馬頭觀音（道標）



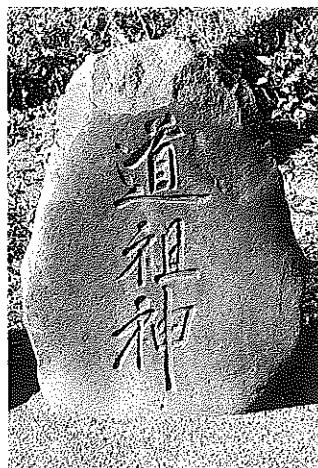
40 地藏菩薩



39 馬頭觀音



42-2 道祖神



42-1 道祖神



43-2 鳥居



43-1 神社標石



43-3 手洗石



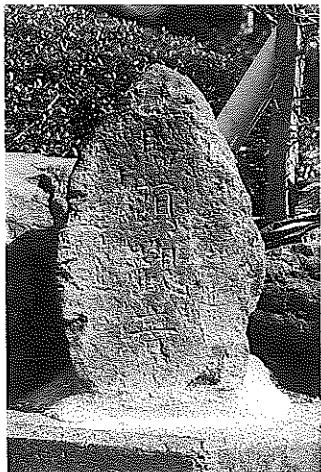
43-6 碑（記念碑）



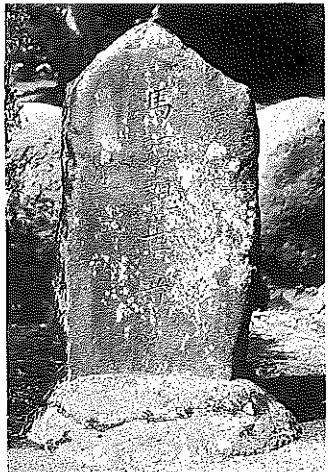
43-5 石灯籠



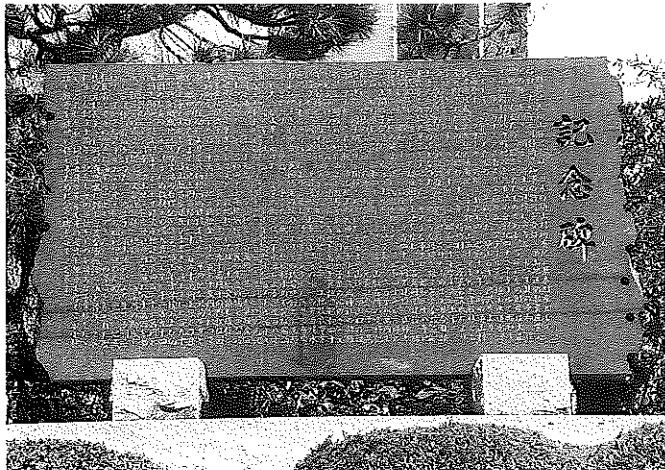
43-4 石灯籠



45 馬頭觀音（道標）



44 馬頭觀音



46 碑（記念碑）



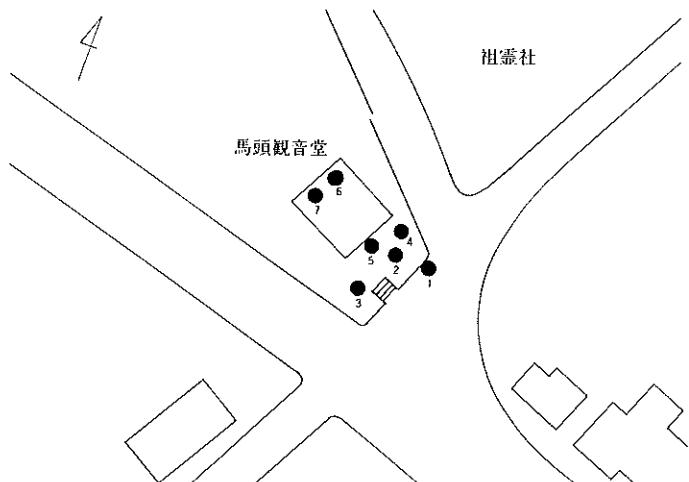
48 馬頭觀音



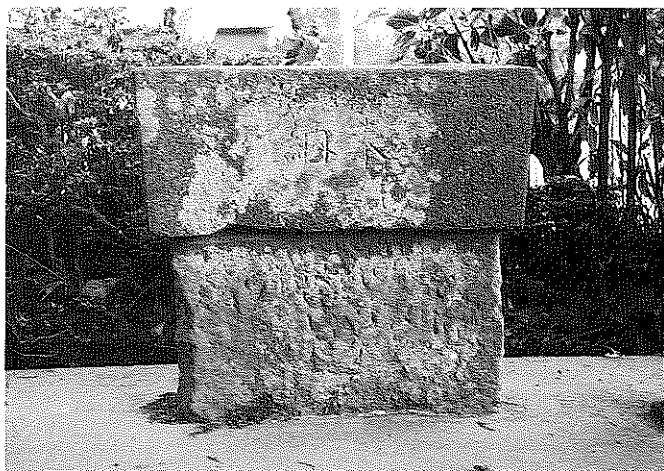
47 馬頭觀音



49-1 道祖神



49 馬頭觀音堂



49-4 手洗石



49-2 順礼供養塔(西・秩)



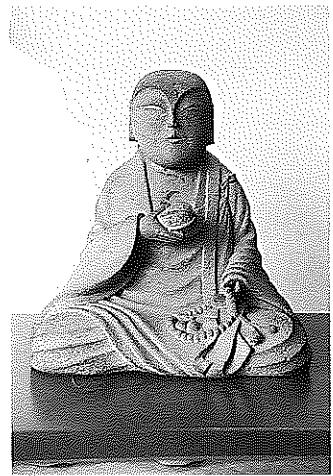
49-5 石造物(線香立)



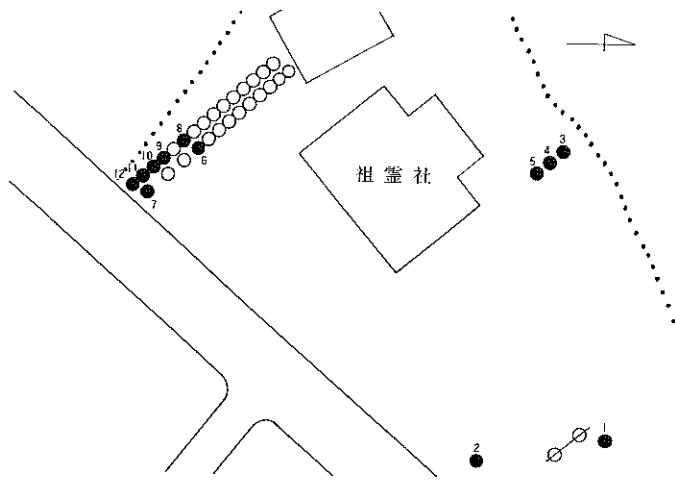
49-3 馬頭觀音



49-7 子安觀音



49-6 石造物（弘法大師）



50 祖靈社



50-3 子待塔（大黒天塔）



50-2 碑（共有地之碑）



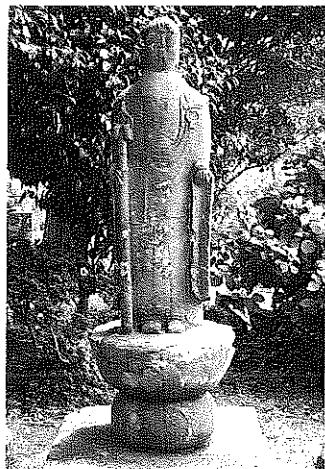
50-1 神社標石



50-6 順禮供養塔（西）



50-5 地藏菩薩（部分）



50-4 地藏菩薩



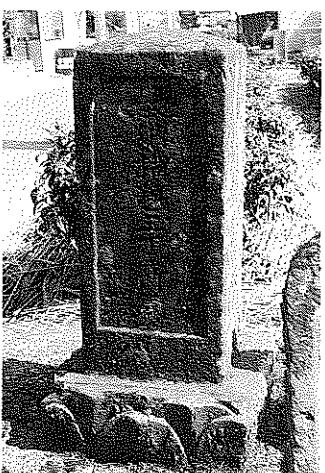
50-9 馬頭觀音



50-8 順禮供養塔（橫）



50-7 無縁塔



50-12 順禮供養塔（橫）



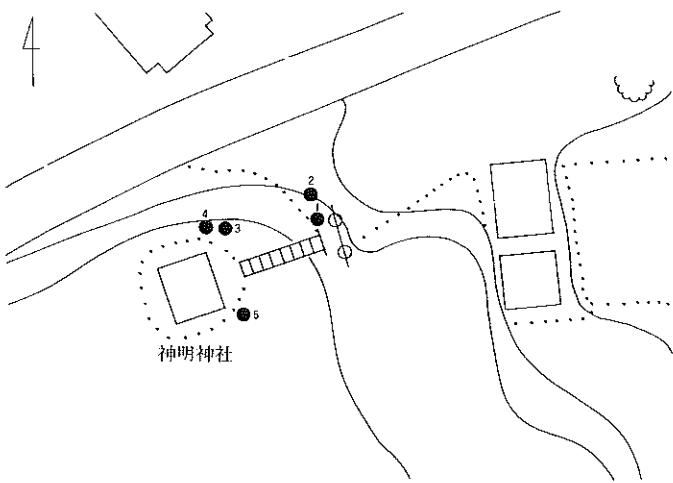
50-11 聖觀音



50-10 聖觀音（部分）



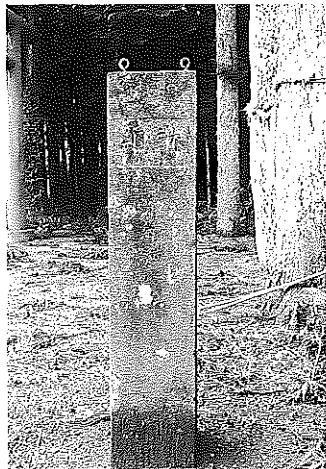
51-1 碑（防獣柵碑）



51 神明神社



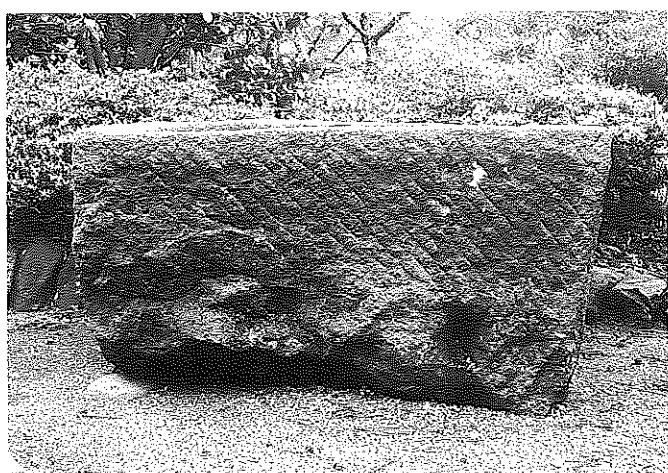
51-3 手洗石



51-2 機立



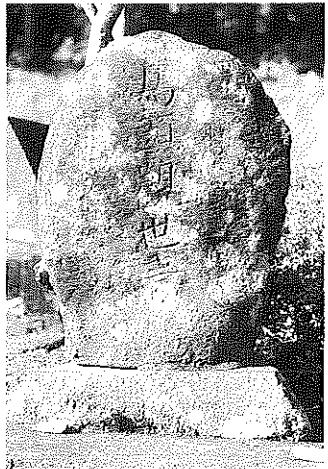
51-5 山の神塔（石祠）



51-4 石造物（貯水槽）



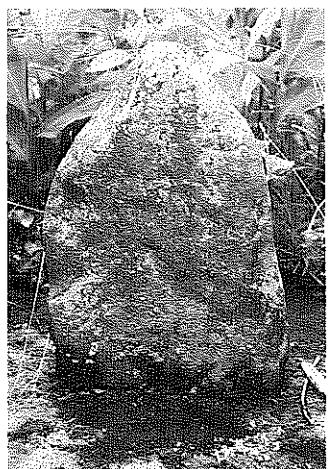
54 道祖神



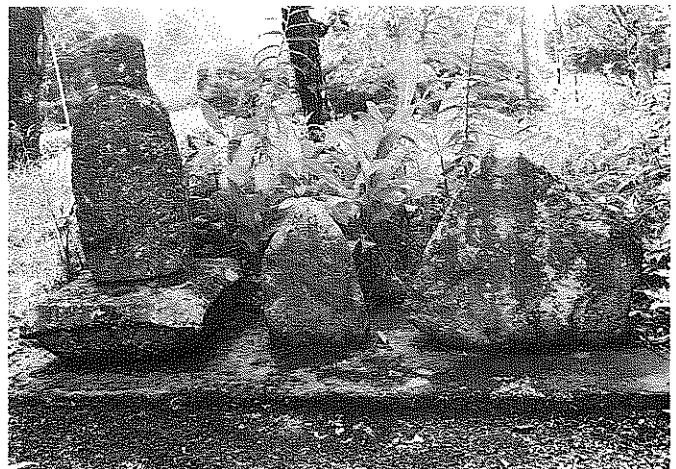
53 馬頭觀音



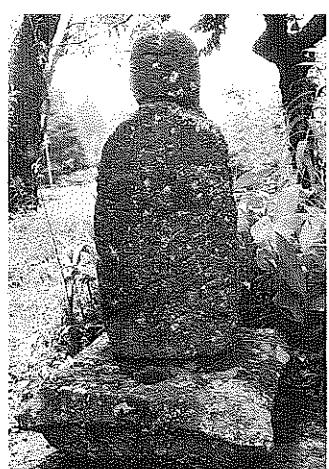
52 常夜塔（部分）



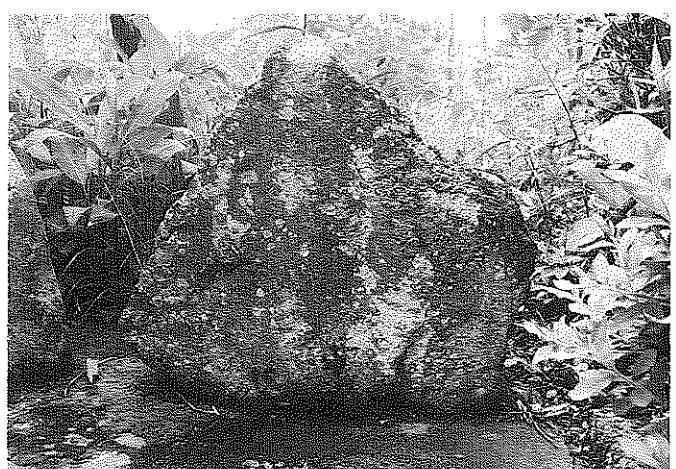
55-2 馬頭觀音



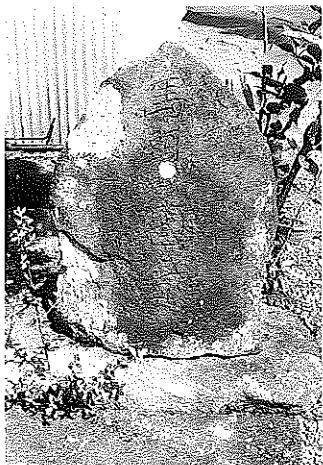
55 須山247 渡辺氏邸内



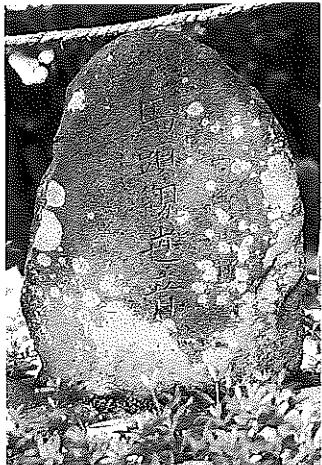
55-3 地藏菩薩



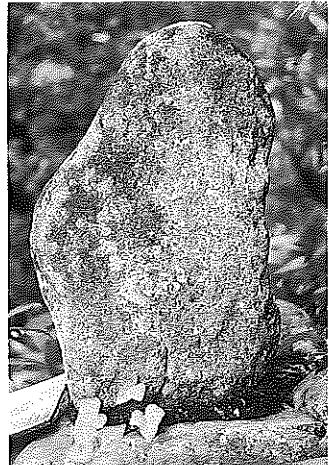
55-1 馬頭觀音



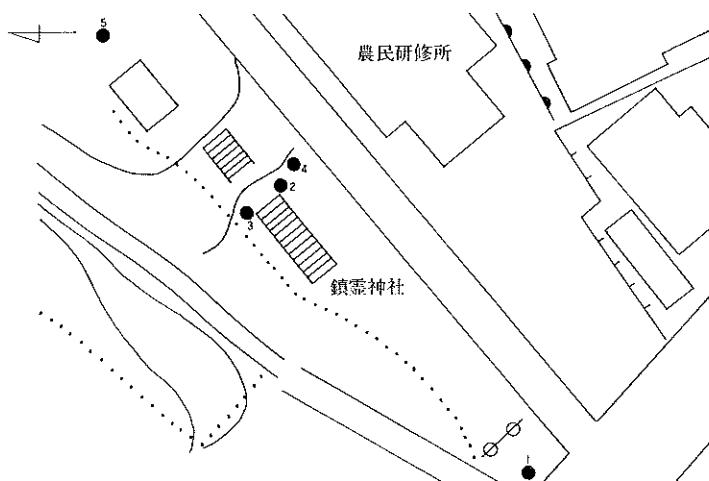
57 馬頭觀音



56-2 馬頭觀音



56-1 馬頭觀音



58 鎮靈神社



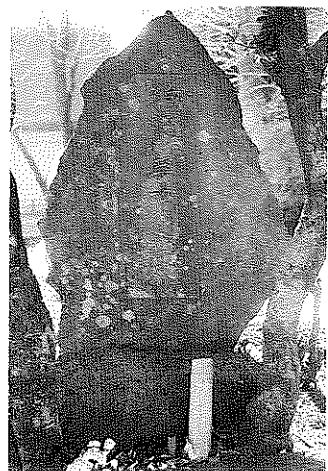
58-3 石燈籠



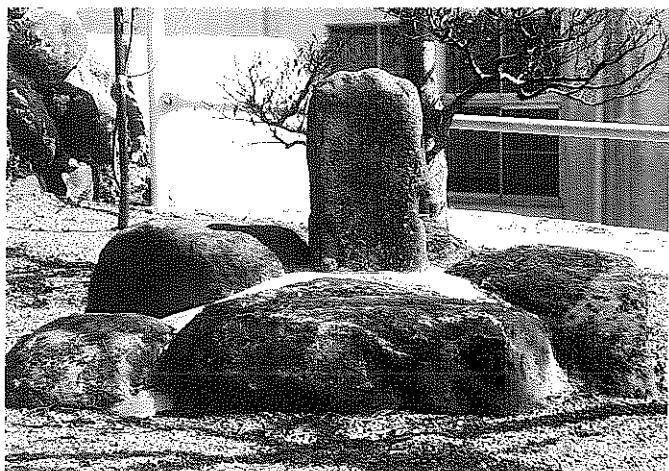
58-2 石燈籠



58-1 神社標石



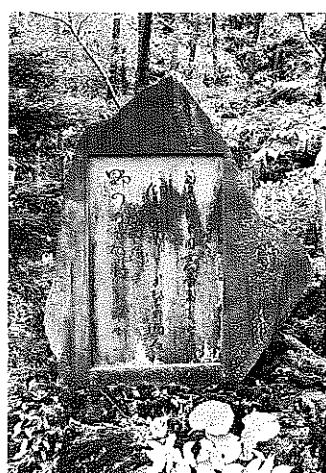
58-5 碑（殉難三士）



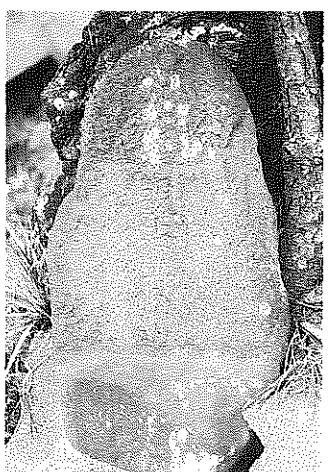
58-4 碑（町制十周年記念）



60-1 道祖神



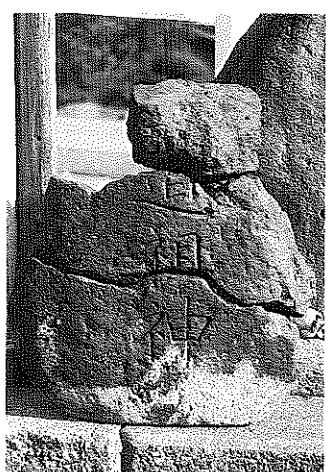
59 文学碑（歌碑）



60-4 馬頭観音



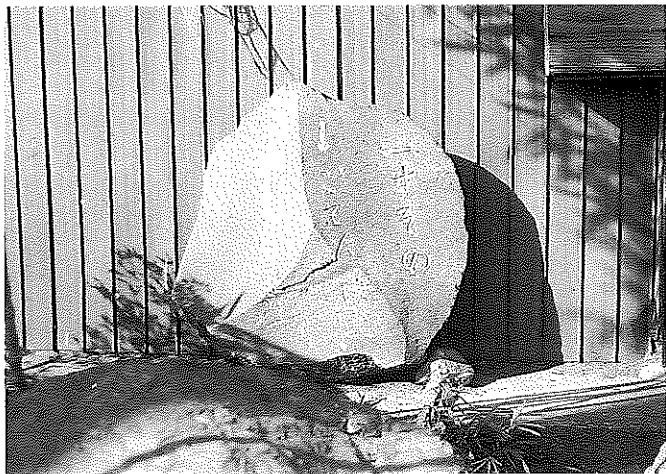
60-3 馬頭観音



60-2 道祖神（部分）



62 庚申塔



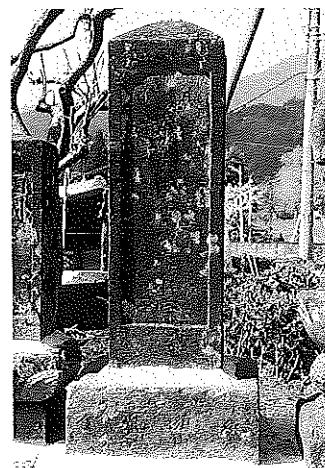
61 道 標



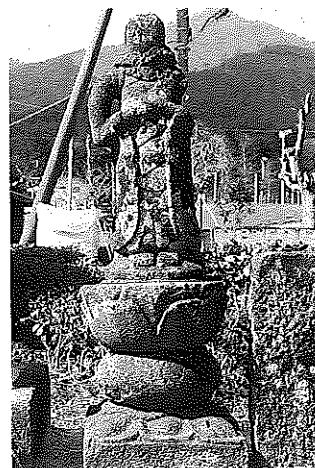
64 須山596-1 土屋氏邸西側



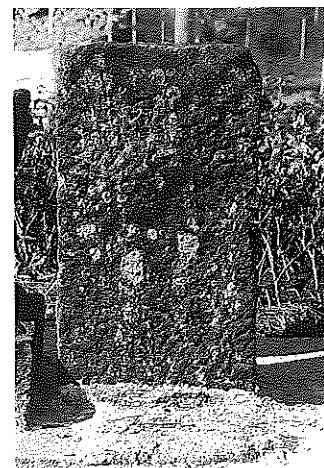
63 道 標



64-3 回國塔



64-2 順禮供養塔（横）



64-1 石造物（不明）



64-5 順礼供養塔（豆駿）

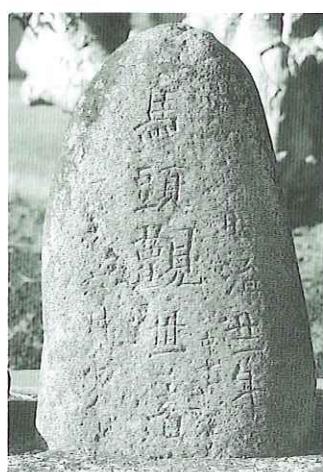
64-4 順礼供養塔（西・秩）



65 須山中学校北側三叉路



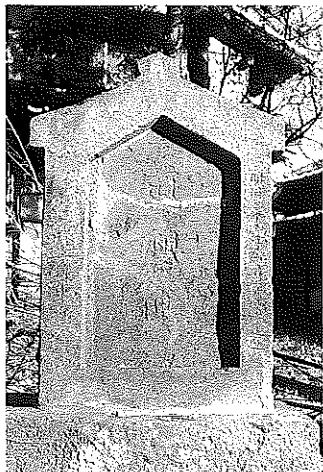
65-3 道 標



65-2 馬頭觀音



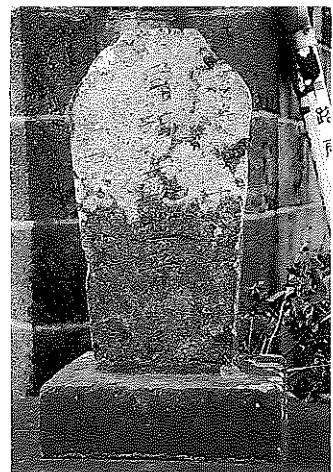
65-1 馬頭觀音



68 道祖神



67 馬頭觀音



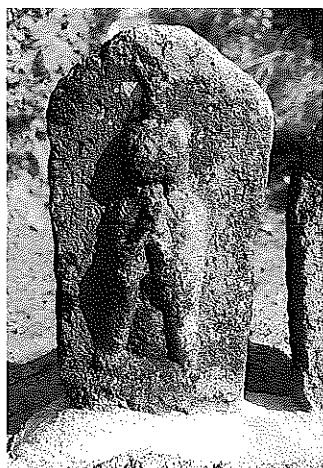
66 馬頭觀音



70 須山田向辻四又路



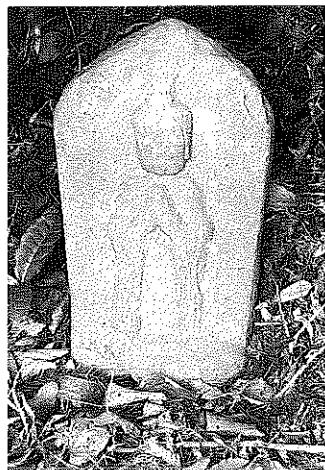
69 碑（法自然）



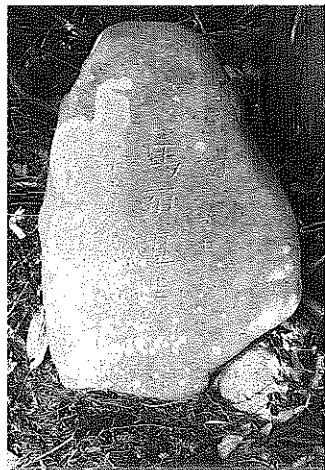
70-2 馬頭觀音



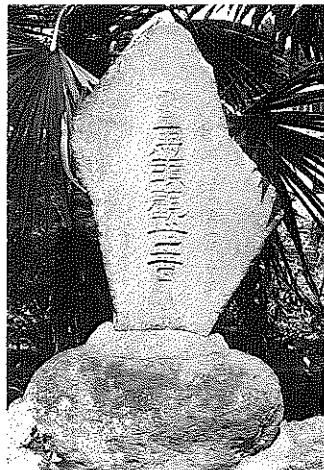
70-1 馬頭觀音



72-2 馬頭觀音



72-1 馬頭觀音



71 馬頭觀音



73-2 馬頭觀音



73-1 馬頭觀音



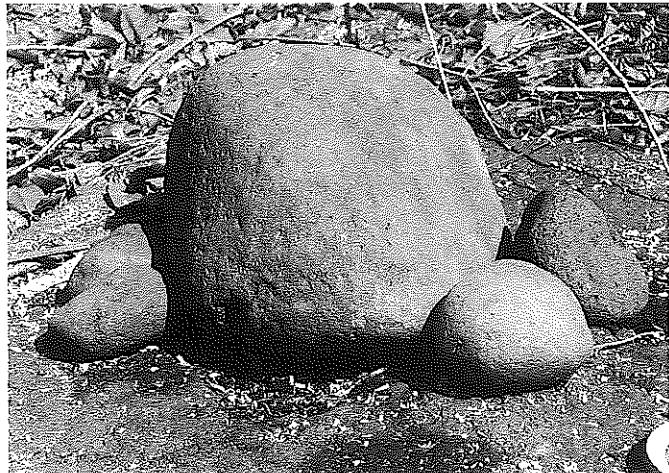
74-3 廣申塔



74-2 石燈籠 (部分)



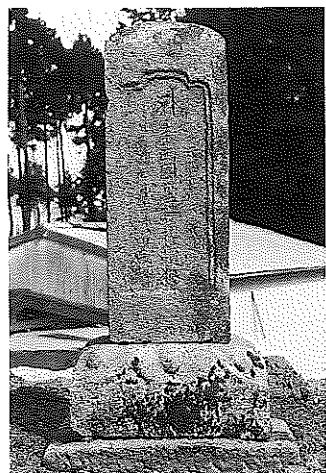
74-1 石燈籠 (部分)



77 道祖神（丸石）



75 馬頭観音



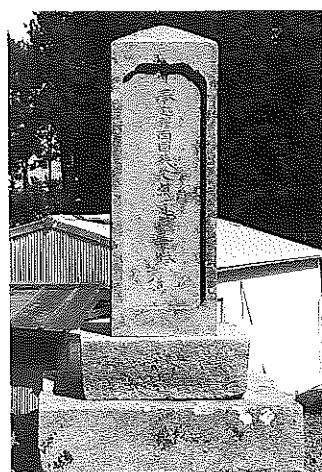
76-1 順礼供養塔（西）



76 順礼供養塔（須山1656 伊藤氏邸南側）



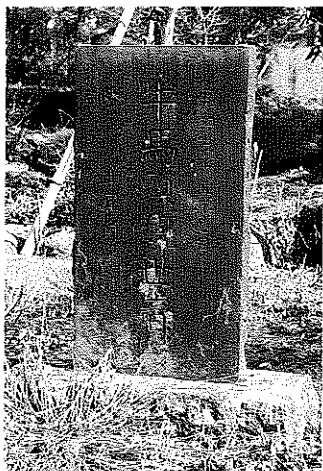
76-4 順礼供養塔（西・横）



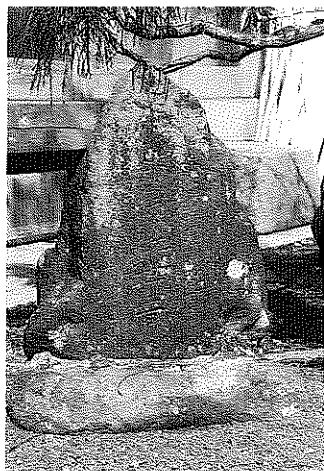
76-3 順礼供養塔（西・秩・横）



76-2 順礼供養塔（西）



80 牛馬觀音



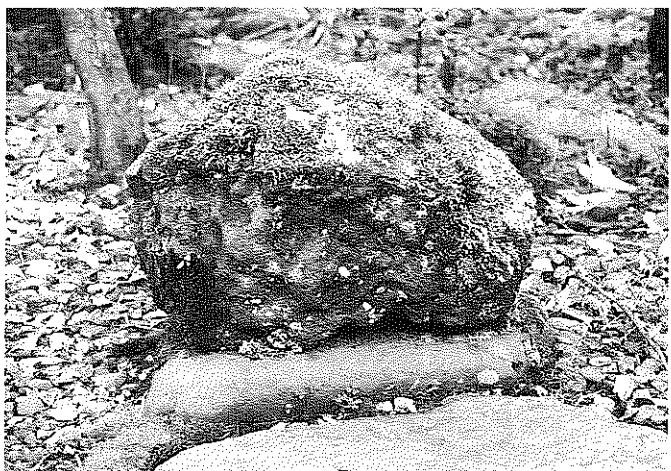
79 牛馬觀音



78 馬頭觀音



82-1 馬頭觀音



81 諸神（シンノ神）



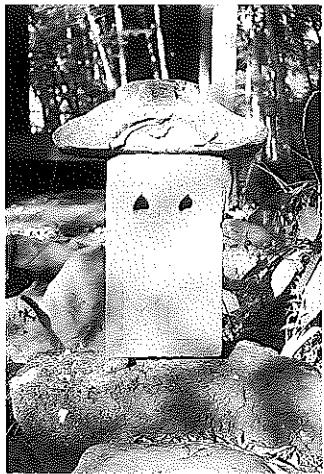
82-4 地藏菩薩



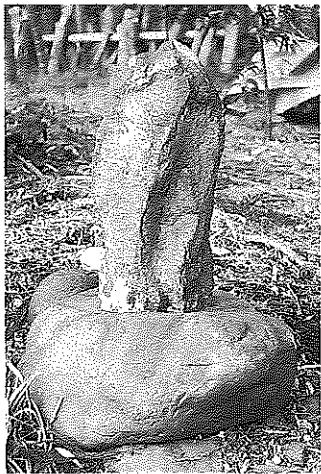
82-3 順禮供養塔（秩・西）



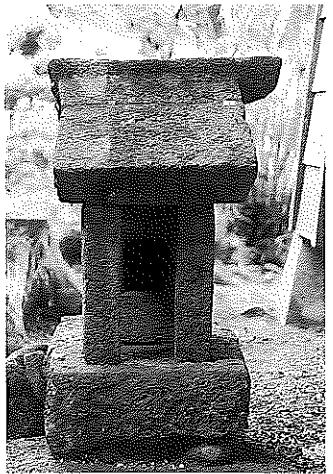
82-2 順禮供養塔（西）



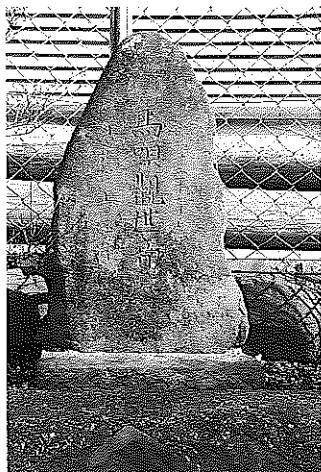
85 諸神（天神）



84 馬頭観音



83 山の神塔（石祠）



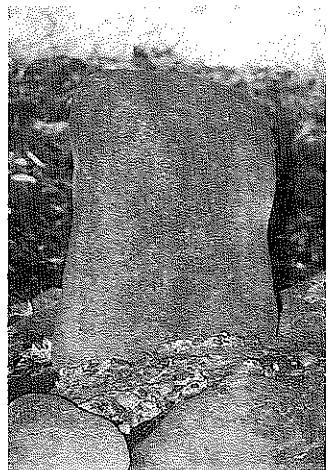
87 馬頭観音



86 馬頭観音



88 水神塔



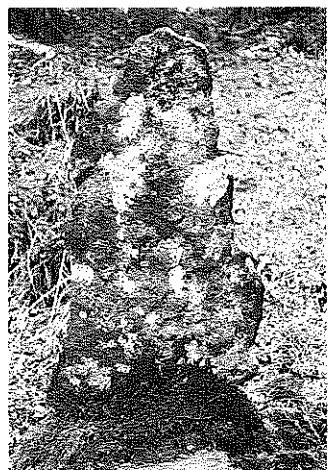
89-4 諸神（守護神）



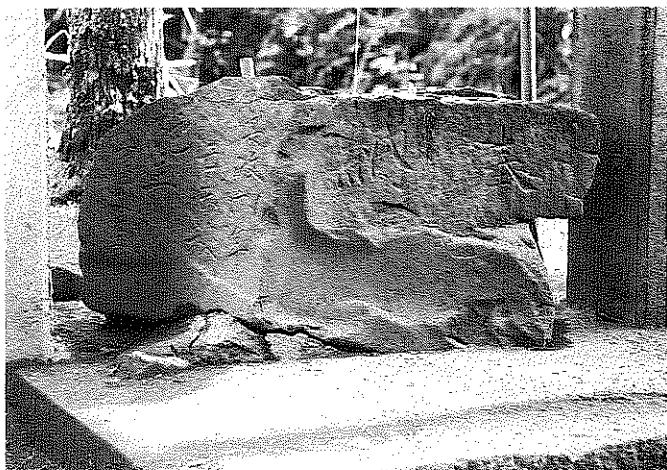
89-2 石燈籠（部分）



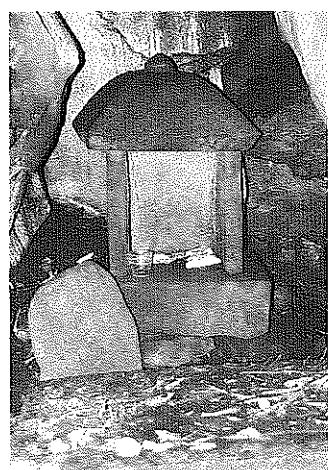
89-1 石燈籠（部分）



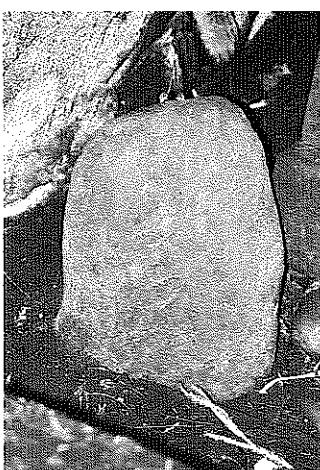
89-5 諸神（守護神）



89-3 手洗石



90-2 水神塔（石祠）



90-1 水神塔



91-1 水神塔（石祠）



94 水神塔



93 諸神（風神）



92 水神塔

須山地区Ⅱ石造物一覧表

番号	種類	形状	造立年	法量(cm)	銘文(備考)
24	23	22	21	20 - 2	20 - 1
碑 (水源造成記念)	馬頭觀音 (道標)	道祖神	馬頭觀音	鳥居	神社標石
板 石	自然 石	自然 石	舟型立像	明 神 型	角 柱
昭和46 (一九七一)			明治1 (一八六八)	平成5 (一九九三)	平成5 (一九九三)
153 X 198	62 X 45	33 X 18	80 X 42	365 X 434	243 X 67
					(正) 頭神燈 (左) 渡辺春 (中台) 奉納 (宝珠・笠・火袋・基盤部補修)
					(左) 村中世話人 薩藏
					(正) 穂見神社 (背) 奉納 平成五年十一月吉日 荻田育保 勝呂剛房 渡辺赴巳夫 杉山忠國
					(正面額) 穂見神社 (左柱正) 奉 (左柱背) 平成五年十一月吉日 杉山忠國 有限会社 三島屋商店 (右柱背) 有限会社 勝呂建設 株式会社 荻田産業
					(正) 明治元辰年十月十八日 郷中牛馬療法場子ツトイ 登起世話人 枇山甚左衛門
					(正) 馬頭觀世音 右御殿道 左印野道 渡辺宗作建之 別記8(71頁)

番号	種類	形狀	造立年	銘文	(備考)						
30 + 1	29	28 + 2	28 + 1	27	26	25 + 3	25 + 2	25 + 1	職立		
神社標石	道祖神(双体)	諸神(稻荷神)	山の神塔(石祠)	道祖神	馬頭觀音(道標)	手洗石	石燈籠				
角柱	浮彫立像	祠	祠	自然石	自然石	自然石	燈籠			大正11(一九二二)	
大正8(一九一九)										文久1(一八六一)	
256 × 30	46 × 30	78 × 40	69 × 42	69 × 58	50 × 44	23 × 70	115 × 50	141 × 79		(正)奉納 氏子中 (背)大正一年一月十七日建石	
(正) 神饌幣帛料 (背) 奉納 大正八年四月十七日 本郡泉村 川村平太郎	(一部欠落・風化)			(正)道祖神 (背)秋山栄	(正)馬頭觀世音 右印野道 左山道 萩田仁三郎 建石				(正)御神燈 (右)文久元西年十一月 (左)願主 土屋久太夫 (笠部破損・火袋欠落)		

番号	種類	形状	造立年	法量(cm)	銘文	(備考)
30-2	手洗石	自然石	文政7(一八二四)	61×123	(正)若者中 文政七甲申歲 五月日 (正)奉獻 常夜燈 (背)文政六癸未歲五月 (台座左)願主 當所 土屋十太夫 平松新田 鈴木永左衛門 (火袋補修)	
30-3	常夜塔	灯籠	文政6(一八二三)	250×147		
30-4	石燈籠	灯籠	寛保2(一七四二)	198×67	(正)奉納 御臺前 (背)寛保二壬戌天 七月吉日	
30-5	手洗石	箱型		69×125	(正)奉納 (背)拜殿新築記念 東京都日野市 土屋宗一	
30-6	文学碑(漢詩碑)	板石	昭和53(一九七八)	265×281	(正)世有汚隆野有贊汚隆齊仰岳之蓮 高高師表茲運往猶且雄姿待靈天 乙亥暢月念一日沼津客中 賦呈充須山諸贊高鑑 犀東 (背)昭和五十三年 静岡県裾野市觀光協会 石工 納米里 吉川正嗣	
31-1	碑(戰役記念)	自然石	大正7(一九一八)	270×210	別記9(72頁)	
31-2	常夜塔	灯籠	文化1(一八〇四)	168×110	(正)奉獻常夜燈 (背)文化元甲子秋九月日 (笠一部欠落・火袋補修) (正)奉納 新井原中 嘉永六癸丑五月	
自然石	手洗石	自然石	嘉永6(一八五三)	66×73		

番号	種類	形状	造立年	法量(cm)	銘文(備考)						
37 1 1	36	35	34	33	32	31 1 4	31 1 3	石造物(貯水槽)	箱型	明治23(一八九〇)	(正)明治二十三年十一月修造世話人土屋伊三郎土屋善藏菅沼久次郎 富崎又七富崎米吉土屋萬作土屋勝次郎土屋仙次郎土屋伊平 富崎真吉荻田市太郎
碑(非常用水奉納)	馬頭觀音	馬頭觀音(道標)	地藏菩薩	馬頭觀音	馬頭觀音	自然石	自然石	舟型立像	昭和24(一九四九)	昭和28(一九五三)	(正)馬頭觀世音昭和二十四年十月十八日荻田大作建之
自然石	自然石	自然石	自然石	自然石	自然石	昭和24(一九四九)	昭和28(一九五三)				(正)馬頭觀世音昭和二十八年十一月一日荻田育保
明治33(一九〇〇)											(正)爲是心信菩提也五月四日
33 × 56	66 × 69	41 × 32	66 × 38	78 × 60	87 × 81	83 × 150	83 × 122				(正)馬頭觀世音右印野道左山道荻田太十郎建之
(正)非常用水 渡辺梅吉 全雪城 大村常三郎 石子橋本喜八	(正)馬頭觀世音										(正)馬頭觀世音右印野道左山道荻田太十郎建之

番号	種類	形狀	造立年	銘文	(備考)
37—2	石祠 (山の神・稱荷神)	祠			
38—1	諸神(地神)	自然石			
38—2	馬頭觀音	自然石	昭和24(一九四九)	(正)馬頭觀音 昭和廿四年一月吉日 施主渡邊次雄	
39	馬頭觀音	自然石	明治18(一八八五)	(正)馬頭觀音 明治十八年 西八月□日 □ 右郎□□ 左□□□	
40	地藏菩薩	丸彫立像	55×37	61×37	81×51
41	馬頭觀音(道標)	大正5(一九一六)	43×36	55×32	(頭部風化)
42—1	道祖神	自然石	59×30	79×60	
42—2	道祖神(双体)	駒型			
43—1	神社標石				
角柱	くり抜型	駒型			
平成2(一九九〇)					
211×49	66×46	79×60	59×30	43×36	
(正)正一位 秋葉舖社 (背)奉納 平成元十二月吉日 杉山興蔵	(正)道祖神	(正)馬頭觀音(台座正)組田安全	(正)馬頭觀音 右上村道 左田向道 大正五年二月 杉山常藏	(正)馬頭觀音 右上村道 左田向道 大正五年二月 杉山常藏	(中央部割れ目・風化)

番号	種類	形狀	造立年	法量(cm)	銘文(備考)					
47	46	45	44	43-6	43-5	43-4	43-3	43-2	鳥居	(正面額) 正一位秋葉神社 (左柱背) 平成二年十一月吉日 (右柱背) 奉納 杉山電化センター 富士慶商店 須山ランドリー
馬頭觀音	碑(記念碑)	馬頭觀音(道標)	馬頭觀音	碑(記念碑)	石燈籠	石燈籠	手洗石			
自然石	板石	自然石	自然石	板石	灯籠	灯籠	箱型	明神型	平成2(一九九〇)	
昭和15(一九四〇)	昭和46(一九七二)		大正13(一九二四)	大正12(一九二三)	平成2(一九九〇)	平成2(一九九〇)	平成2(一九九〇)	(正)奉納 (背)平成二年十一月吉日 東部産業 杉山忠國		
38×30	184×221	54×29	66×45	127×84	136×60	136×60	73×90	290×356	(正)御宝前 (左)平成二年十一月吉日 (背)奉納 渡邊良雄 (正)御宝前 (左)平成二年十一月吉日 (背)奉納 高橋松男	
(正)馬頭觀世音 紀元千六百年十一月十日 萩田寒之健	別記11(73頁)		(正)馬頭觀世音 大正十三年一月二十日 高橋三郎 (正)馬頭觀音 右の道 左てん道	別記10(73頁)						

番号	種類	形狀	造立年	法量(cm)	銘文(備考)					
50 — 1	49 — 7	49 — 6	49 — 5	49 — 4	49 — 3	49 — 2	49 — 1	48	馬頭觀音	(正) 馬頭觀世音 宮崎武建之
神社標石	子安觀音	石造物(弘法大師)	石造物(縫香立)	手洗石	馬頭觀音	順礼供養塔(西・秩)	道祖神(双体)		自然石	(一部欠落)(風化)
角柱	浮彫座像	丸彫座像	箱型	箱型	自然石	山荊角柱	浮彫立像			
平成2 (一九九〇)					昭和15(一九四〇)	太正14(一九二五)	明和3(1766)			
274 × 77	42 × 27	34 × 32	25 × 39	50 × 54	262 × 207	117 × 61	69 × 41	66 × 55	(正) 奉納 (左) 昭和十五年吉日 字原 渡辺けい 別記13(75頁)	(集落では子安さんと称している/須山觀音堂内) (須山觀音堂内)
(正) 祖靈社 (背) 平成二年七月吉日 財團法人 須山振興會建之 (台座背) 設計施行 吉川石材店 長泉町納米里 TEL〇五五九(86)四九四四										

番号	種類	形狀	造立年	法量(cm)	銘文(備考)					
50—9	50—8	50—7	50—6	50—5	50—4	50—3	50—2	碑(共有地之碑)		
馬頭觀音	順札供養塔(橫堂)	無縁塔	順札供養塔(西)	地藏菩薩	地藏菩薩	子侍塔(大黒天塔)	板石			
舟型立像	舟型立像	櫛型	山型角柱	丸彫立像	丸彫立像			大正8(一九一九)		
安政1(一八五四)	元禄6(一六九三)		宝曆4(一七五四)					別記14(75頁)		
64×45	89×45	59×33	78×45	91×51	210×94	97×51	471×458			
(正) 安政元甲寅十一月 (舟型上部欠落)	(正) 犬 千時元禄六天 壱酉二月今日 駿河須山村塗堂二拾三處靈佛順札 種々重罪□幽冥□自他平等即身成佛為後菩提也 (頸部割れ目)/聖觀音	(正) 至山 聞心 求心 無縁塔	(左) 奉納西國三十三所供養塔 (右) 寶曆四年戊戌天 三月吉日 願主 菩薩 渡口右衛門 渡口桔右衛門 萩田与右衛門 渡口又八 土屋与平次 渡口市三郎 印野村 勝又佐太右衛門 杉山作		(台座正)そく (台座背)須山村中 老若男女 現世安穩 後生淨土 (頸部補修)	(風化)				

番号	種類	形狀	造立年	銘文	(備考)
50+10	聖觀音	丸彫立像	延宝8(一六八〇)	(正) 孫奉造立觀世音 為一世安樂也 延宝八庚申歲 閏八月吉日 (頭部丸石補修・一部欠落)	
50+11	聖觀音	舟型立像			
50+12	順札供養塔(横)	山型角柱	寶曆2(一七五二)	(正) 奉納横道三十三所供養塔 (右) 寶曆二甲天 七月吉日 (左) 同行 又八内 平内婦 五面圓 □□助隨 新六 善八母 儀石衛門母 三石衛門母 新感娘	
51+1	碑(防獸棚碑)	自然石	大正9(一九二〇)	別記15(76頁)	
51+2	幟立		昭和7(一九三二)	(正) 獻納 (右) 昭和七年十一月 氏子中	
51+3	手洗石	箱型	昭和56(一九八一)	(正) 奉納 (左) 昭和五十六年七月吉日 納主 榎野市須山 有三島屋商店 渡辺赴日天	
51+4	石造物(貯水槽)	明治□	55×52	130×28	80×40 77×35 (cm)
51+5	山の神塔(石祠)			(正) 明治廿〇年 世話人 勝又□ 小野田利一郎 小野田勝□ 小野田□ 勝又□ 勝又千代吉 土屋□ 土屋□ 勝又□ 賛人土屋□ (銘文判読不能)	
80×41	79×145				

番号	種類	形狀	造立年	法量(cm)	銘文(備考)						
56 — 2	56 — 1	55 — 3	55 — 2	55 — 1	54	53	52	常夜塔(部分)	灯籠	寛政6(一七九四)	(正)奉納常夜燈 寛政六甲寅夏五月日 奉寄附 豆州戸田村 佐山作三郎 (背)發起 渡邊口口源正直
自然石	自然石	丸彫立像	自然石	自然石	笠付	自然石	昭和10(一九三五)				土屋義直 世話人 土屋仙太夫直道 (残存 筏・基礎部)
昭和19 (一九四四)					文化12(一八一五)	61 × 48	142 × 152				(正)馬頭觀世音 昭和十年二月吉日 勝又清敷之建
59 × 58	55 × 35	79 × 45	36 × 23	49 × 43	129 × 88	(正)道祖神 (右)文化十二年 (左)亥子賈建之 (笠一部欠落)					(正)馬頭觀世音 昭和十九年二月三日 渡邊重雄建之

番号	種類	形狀	造立年	銘文	(備考)					
60-2	60-1	59	58-5	58-4	58-3	58-2	58-1	57		
道祖神	道祖神	文學碑(歌碑)	碑(殉難三王)	町制十周年記念	石燈籠	石燈籠	神社標石	馬頭觀音		
自然石	自然石	板石	自然石	昭和37(一九六二)	灯籠	灯籠	角柱	自然石	大正15(一九二六)	49×48
		昭和55(一九八〇)	昭和53(一九七八)	太正6(一九一七)	昭和30(一九五五)	昭和30(一九五五)	平成6(一九九四)	(正)馬頭觀世音 大正十五年八月 渡辺弥十郎	(正)馬頭觀世音 大正十五年八月 渡辺弥十郎	(正)鎮靈神社 (背)平成六年十一月吉日 鎮靈神社奉贊會建之 吉川石材店刻
34×45	65×73	187×218	112×80	86×122	178×66	180×67	265×106	(正)獻燈 (背)昭和三十年七月 久保田石材店 (正)町制十周年記念 植野町 (背)昭和二十七年四月八日 (正)町制十周年記念 植野町 (背)昭和二十七年四月八日	(正)獻燈 (左)四十八柱 墓碑建設記念 (背)昭和三十年七月 久保田石材店	(正)鎮靈神社 (背)平成六年十一月吉日 鎮靈神社奉贊會建之 吉川石材店刻
	(正)道祖神	(中央部割れ目・上部欠落)		別記17(76頁)						

番号	種類	形狀	造立年	法量 (cm)	銘文 (備考)						
64-3	64-2	64-1	63	62	61	60-4	60-3	馬頭觀音	舟型立像	天明2(一七八一)	(正)天明二寅年四月吉日本村中
廻園塔	順礼供養塔(橫堂)	石造物(不明)	道標	庚申塔	道標	馬頭觀音	馬頭觀音	天明2(一七八一)	天明2(一七八一)	(正)馬頭觀世音	(正面)馬頭觀世音
山型角柱	九彫立像	自然石	山型角柱	笠付角柱	自然石	自然石	自然石	天明2(一七八一)	天明2(一七八一)	五年	(正面)上部欠落
正徳5(一七一五)	享保4(一七一九)		明治12(一八七九)	寛文4(一六六四)	明治39(一九〇六)	44×25	85×41	(正)→すその三里半 (背)明治三十九年仁藤春耕	(正)→すその三里半 (背)明治三十九年仁藤春耕	(正)→すその三里半 ごてんば三里十八丁←じうりぎ一里半	(正面)上部欠落
126×52	123×38	75×55	97×28	214×56	64×65	44×25	85×41	(正)○○天下和順日月清明 生滅滅已寂滅為樂 (背)千時寛文四甲辰五月吉日 新井十一人瀬二千人原一人 罔上巣山村 (左)諸行無常 (右)是生滅法 (左)久保十人 (右)一鶏・一猿浮彌	(正)○○天下和順日月清明 生滅滅已寂滅為樂 (背)千時寛文四甲辰五月吉日 新井十一人瀬二千人原一人 罔上巣山村 (左)諸行無常 (右)是生滅法 (左)久保十人 (右)一鶏・一猿浮彌	(正)○○天下和順日月清明 生滅滅已寂滅為樂 (背)千時寛文四甲辰五月吉日 新井十一人瀬二千人原一人 罔上巣山村 (左)諸行無常 (右)是生滅法 (左)久保十人 (右)一鶏・一猿浮彌	(正)○○天下和順日月清明 生滅滅已寂滅為樂 (背)千時寛文四甲辰五月吉日 新井十一人瀬二千人原一人 罔上巣山村 (左)諸行無常 (右)是生滅法 (左)久保十人 (右)一鶏・一猿浮彌
別記20	(77頁)	別記19(77頁)		別記18(77頁)							
		(顎部補修/聖觀音)		(風化)							

番号	種類	形狀	造立年	法量(cm)	銘文(備考)
64-4	順礼供養塔(西・秩)	山型角柱	文化13(一八一六)	95×44	(一部欠落)
64-5	順礼供養塔(豆駿)	山型角柱	嘉保12(一七二七)	77×44	別記21(77頁)
65-1	馬頭觀音	舟型立像	宝曆12(一七六二)	82×43	(正) 宝曆十二年五月吉日
65-2	馬頭觀音	自然石	明治21(一八八八)	52×30	(正) 馬頭觀世音 明治廿一年壬午月十八日 中村
65-3	道標	山型角柱	(正) 左富士山道 須山八丁 (背面一部欠落)	55×39	
66	馬頭觀音	舟型	(正) 馬頭觀世音 明治十六年第四月十八日 (舟型上部欠落)	60×33	
67	馬頭觀音	板石	(正) 馬頭觀世音 平成元年六月吉日 坂田昌一建之 (正) 馬頭觀世音 平成元年六月吉日 坂田昌一建之	55×31	
68	道祖神	駒型	(正) 道祖神 明治三十二年六月十九日建之 坂上郷中 (外梓コンクリート)	88×70	
明治33(一九〇〇)		平成1(一九八九)			

番号	種類	形状	造立年	法量(cm)	銘文(備考)				
73-2	73-1	72-2	71	70-2	70-1	69	碑(法自然)	昭和53(一九七八)	(正)法自然 (背)昭和五十三年十一月二十三日創業二十周年記念石工納米里吉川正嗣 庭師函南落部正行同山田喜庸千福西島美男
馬頭觀音	馬頭觀音	馬頭觀音	馬頭觀音	馬頭觀音	馬頭觀音	馬頭觀音	自然石	舟型立像	(正)六六年□□屋太左衛門 (舟型上部欠落・風化)
自然石	舟型立像	舟型立像	自然石	自然石	昭和12(一九三七)				
昭和7(一九三二)	文化10(一八一三)		明治27(一八九四)	116×66	41×23	34×25	156×119	(正)田向中村新七 (風化)	(正)法自然蘇峰八十叟 (背)昭和五十三年十一月二十三日創業二十周年記念石工納米里吉川正嗣 庭師函南落部正行同山田喜庸千福西島美男
63×37	65×35	39×21	51×34	(正)馬頭觀世音 明治廿七年十一月十八日	(正)◎馬頭觀世音 昭和十一年一月吉日勝又福太郎建之				(正)馬頭觀世音 昭和七年十一月勝又口治建之
				(正)文化十九年三月吉日田向中					(正)文化十九年三月吉日田向中
				(風化)					(風化)

番号	種類	形狀	造立年	銘文	(備考)
74-1	石燈籠	燈籠	明和2(一六六五)	(正)奉納燈籠 六月吉日 願主 根上右衛門	(火袋欠落)
74-2	石燈籠	燈籠	117×47	127×47	
74-3	庚申塔	角筈唐破風柱	寛文4(一六六四)	別記23(78頁)	(正)奉納燈籠 明和二酉天 六月吉日
75	馬頭觀音	浮彫立像	45×40	(正)□政□年六月	(宝珠・火袋欠落)
76-1	順禮供養塔(西)	櫛型角柱	76×36	(正)田向村(右)勝俣定右衛門 猪倉兵左右衛門 勝俣惣左衛門	(鶴・猿浮彫)
76-2	順禮供養塔(西)	山剣角柱	84×50	(正)奉西國卅三所供養塔 寛延四辛未天 七月吉日 同行六人 根上太郎左右衛門 手綱茂兵衛 中村左平次	(風化)
76-3	順禮供養塔(西・横)	山剣角柱	134×74	(正)奉納西國三十所供養塔 寛延四辛未天 七月吉日 同行六人 (右)同行 中村新三郎 根上久七 (左)同行 土屋友八 同吉右衛門	
76-4	順禮供養塔(西・横)	天明7(一七五七)	109×52	別記24(78頁)	
109×52	別記25(78頁)				

番号	種類	形狀	造立年	銘文(備考)	
82-4	82-3	82-2	82-1	81	
地藏菩薩	順礼供養塔(秩・西)	順礼供養塔(西)	馬頭觀音	諸神(シンノ神)	
舟型立像	山型角柱	自然石	自然石	自然石	
安永3(一七七四)	寛政12(一八〇〇)	寛政6(一七九四)	明治36(一九〇三)		
132×48	95×69	172×103	56×37	26×43	
(正)安永三年四月吉日 施主 田向中 (左)田向地藏堂内	(正)秩父 西國 供養塔 (左)秩父同行十七人 西國同行五人 (正面右侧欠落)	(正)馬頭觀世音 淨圓法子位 西國順禮 豆州田方郡下舟原 俗名 清右衛門 (背)寛政六甲寅 七月十五日 施主 弥平治	(正)馬頭觀世音 明治三十六年 九月十日 根上常吉	79 牛馬觀音 牛馬觀音 昭和35(一九六〇) 73×62 (正)牛馬頭觀世音 昭和三十五年七月 土屋角平建之 66×51 (正)牛馬頭觀世音 昭和三十一年九月吉日 根上勘治建之 106×53 昭和32(一九五七) 板石 昭和2(一九二七) 馬頭觀音 馬頭觀音 78 道祖神(丸石)	78 77

番号	種類	形狀	造立年	銘文(備考)
89-3	89-2	89-1	88	87
手洗石	石灯籠	石灯籠	水神塔	馬頭觀音
自然石	灯籠	灯籠	櫛型	自然石
安政6(一八五九)	文政12(一八二九)	177 95	166 × 102	105 × 74
50 × 111			87 × 52	59 × 46
(正)奉納	(左)安政六年己未秋	(右)文政十二年(左)丑土月日	(中台欠落・火袋補修)	(正)御神燈(左)萬延元庚申年 田向中
				(右)馬頭觀音 昭和廿二年九月吉日 造営 土屋栄作 (正)馬頭觀音 昭和五十七年六月吉日 土屋規矩雄建之 (右)土屋友左衛門 き志ん 別記26(78頁)
				77 × 58
				64 × 47
				85 × 57
				法量(cm)

番号	種類	形状	造立年	銘文(備考)	法量(cm)	94	93	92	91-2	91-1	90-2	90-1	89-5	89-4
水神塔	諸神(風神)	水神塔	自然石	寶鏡印塔(部分)	水神塔(石祠)	水神塔(石祠)	水神塔	諸神(守護神)	諸神(守護神)	自然石	自然石	自然石	自然石	自然石
自然石	祠	自然石			祠	祠								
明治34(一九〇一)	文久1(一八六一)	明治2(一八六九)			昭和38(一九六三)									
101 × 89	59 × 32	73 × 53	16 × 22	73 × 31	66 × 41	41 × 32	144 × 66	48 × 34	(正)原津戸井久保用水明治己巳年五月建之 (背)世話人勝又萬平土屋富正 (右)渡辺利右衛門同佐助秋山惣吉同喜左衛門土方永助石畠村 (左)文久元年酉六月(左)須山村中	(右)滝之沢千八人共有昭和三十八年八月吉日 (左)殘存笠部				
別記27 (78頁)														

別記8 碑（水源造成記念）

(正)

記念碑 雄大なる富士山麓東富士演習場は明治四十五年富士裾野陸軍演習場として設定されたがこの大野原は古来より入会の制度が存在し幾多の変遷をみながら地元民の慣行がなされ大野原による生活権の価値は極めて大きいものがあつた須山地区農民も昭和二十年大東亜戦争終結までは大野原國有地の耕作を許可され農家経済の唯一の源となっていた昭和二十五年連合軍により大野原は接收され須山地区に於ても農耕地一八二ヘクタール採草地三二〇ヘクタールが接收されて関係農家は大きな打撃を受け從来からの農業形態も一大転換の憂目をみると自衛隊も著しく制限されることになった昭和三十四年連合軍は撤退し引続き自衛隊が使用するについて自衛隊と地元民が両立するよう昭和三十四年一月及び昭和三十六年九月閣議了解により演習場周辺に民生安定事業が計画実施されることになった 事業の実施については県及び富士裾野東部土地改良区が計画指導をなし又演習場対策委員会が國へ強力な促進運動をすると共に地元民が協力されたことにより今日の成果を得たものである 特に開田事業の根源である水源確保のために造られた溜池に

一、溜池 昭和四十二年完成時水量十万トン
溜池事業費一億三千八百六十五万五千円
用水路事業費三千六百八十八万四千円

排水路事業費四百五十八万九千円

二、開田用須山一号井戸

昭和三十五年完成 揚水量毎秒十三リットル
深さ百八十米事業費一千五十二万六千円

三、須山二号井戸

昭和四十四年完成 揚水量十五リットル
深さ二百米事業費一千六百万九千円

四、東富士七号井戸

昭和四十五年完成 揚水量十五リットル
深さ百八十米事業費一千六百五万六千円

五、東富士八号井戸

昭和四十六年完成 揚水量十五リットル
深さ百八十米事業費一千五百六十一万四千円

六、東富士十一号井戸

昭和四十六年完成 揚水量十五リットル
深さ百八十米事業費一千五百六十一万四千円

七、水田造成工事

1、昭和三十五年度 三、三ヘクタール
2、昭和三十八年度 三、一ヘクタール
3、昭和四十四年度 六、八ヘクタール

4、昭和四十五年度 六ヘクタール 合計三三一、二
" 松下げ地 十三ヘクタール

たのである須山地区に実施された事業は次の通りである

ヘクタール事業補助金二千四百五万三千円

八、飲料水用深井戸

昭和四十二年完成 揚水量八リットル

事業費一千四百五十三万円

内國庫補助金一千八十九万円 堀野市負担金二百万円

須山振興会負担金百六十四万円

九、農民研修所

昭和四十五年完成事業費三千四百九十万円

内國庫補助金一千八百三十万円

須山振興会負担金一千六百六十万円

須山地域に國が支出した合計金額は実に二億七千八百

万円となる

以上の如く須山地区多年の念願であった演習場周辺民生安定事業は一應達成され須山地区には不可能とされ

ていて水田造成事業も完成し又演習行為により減水した飲料用水源も確保されたので地区住民の喜びは実に大きいものがある よつて大野原の沿革とそれに伴う一大事業を後世に伝へるため記念碑を建て之を記す

(背)

歴代役員 土地改良理事 渡辺安衛 中村良太

監事 横山茂雄 総代 杉山辰己 杉山隆良 根上勘次

土屋貞彦 土屋穏 小野田旭 加藤常元 横山春衛

水利組合長 萩田大作 土屋幹男

協力者 東富士補償工事建設事務所所長 倍田明

補償課長 杉崎辰雄 演習場対策委員長 勝又実

土屋幹男 杉山保信 副委員長 土屋規矩雄 土屋廣作

須山支所長 渡辺國一

発起人 代表 土地改良理事 萩田実 総代 渡辺定良

渡辺勝雄 杉山定夫 土屋廣作 中村京一 渡辺隆憲

横山要 区長 渡辺篤治 杉山孝一 土屋巽

横山忠行

昭和四十六年十二月十三日

沼津市上香貫 有限会社高嶋石材店 刻

碑文作者 堀野市經濟部長 渡辺日出男

別記9 碑 (戦役記念)

(正) 戦役記念碑

歩兵第三十四聯隊長 陸軍大佐木村益三書
(背) 日清戦士 土屋金治 瀧川千代吉 渡邊兼蔵

土屋兼吉 日露戦士 渡邊久平 土屋勘四郎
渡邊竹治 渡邊瀬 横山栄次郎 細谷石次郎
土屋大一郎 勝又兼吉 宮崎豊吉 勝又伊作

渡邊茂作 中村留作 根上平作 渡邊長安 渡邊清吉
山川茂作 杉山栄次郎 土屋平三郎 横山萬作
田代勝次郎 渡邊重作 日獨戦士 宮崎圓作
杉山萬平 野田幹三 根上喜市 坂田嘉一 手綱政良
根上徳次郎 発起人 村長 杉山權作 助役 土屋浅治
社司清水兼吉 氏子總大渡邊久雄 渡邊善作

中村國吉 土屋平次郎 石工志村松吉

(台座正) 日清戦利品 日露戦利品 日獨戦利品

大正七年九月建設

別記10 碑（記念碑）

（正）記念 非常用水溜新設 大正十二年三月

世話人 渡辺茂作 杉山萬平 齋間茂三郎

杉山勝三郎 杉山仁作 杉山保 杉山廣 杉山正雄

杉山牧太 杉山豊樹 杉山喜平 杉山岩次郎

杉山栄作 杉山喜作 杉山東作 杉山新太郎

杉山恒雄 外谷切元吉 杉山喜六 大村常三郎

杉山清吉 杉山和三郎 杉山金次郎 杉山音太郎

鈴木清藏 杉山昇 杉山武衛 杉山與吉 杉山幸由

渡辺格平 渡辺高十 高橋仁三郎 塩川龜吉

杉山栄作 田中梅蔵

一金五円也寄附 渡辺富平

別記11 碑（記念碑）

（正）記念碑

財團法人須山振興会は、旧来の須山村所有地を基本財産として、昭和三十七年五月静岡県知事の許可を受け、須山地区の教育産業文化の振興を図り、明るい郷土の建設に寄与し、もつて其の平和、理想郷をつくるため、設立されたものである。当振興会の財産は大正十年印野村外八ヶ町村入会共有地の分割地四十ヘクタールと昭和十三年、須山百十三戸共有より宇藤原五ヘクタールを、須山水道水源地として、寄附されたもの 同年同じく、須山百十三戸共有より、宇藤原十二ヘクタールを寄附されたもの、昭和十八年、時の須山村長渡邊

政蔵氏より個人所有地、字小物成山五十アールを学校林として寄附されたもの、又昭和二十七年、時の村長土屋嘉昌久氏により、字藤原を三百八十八ヘクタール、及び昭和三十年字小物成山十二、四ヘクタールを、それぞれ国より払下げを受けたものであり今日須山振興会の繁栄の礎となつた。このような経緯を経て振興会設立以来数多くの公共事業を実施した。その主な事業は、昭和三十八年地区民の長い念願であった幼稚園を土地交換し、七百萬円で建設、裾野市に寄附。昭和三十九年、診療所を五百四十万円で建設、医師を招請し、地区民の健康管理に萬全を期した。又昭和四十年水泳場のない山間の子供達に、水泳プールを 土地交換し、六百十八萬円で建設、裾野市に寄附、昭和四十一年沿津警察署須山駐在所の老朽化に伴い、地域の治安維持の源である駐在所を、地元負担金七十二萬円で建設、同年明治以来閉鎖されていた表富士登山道、須山口の復活も決まり、これを機に須山地区の氏神である須山浅間神社の拜殿新築を、時の氏子總代および建築委員会で計画氏子衆の心のさゝえである神社の造営をみたその建築費二百九十万円を負担。昭和四十演習場に基因する開田事業のため溜池用地を交換、土地改良事業に協力した。同年東富士演習場内にある須山部落の唯一の弁当場水源地が米軍の演習行為により荒廃し、湧水量が減少した為県市当局および地区水利組合委員関係者の協力によりその代替施設として防衛予算によ

り工事を施行この事業の完成により飲料水の不足は解消され大きな成果をあげた。事業の概要是地下水源による深度百八メートル揚水量一日五百五十立方メートル自然水位百メートル揚水々位百五メートルであるこの総事業費一千四百五十三萬円 この内訳は国庫補助金一千八十九萬円、市負担金二百萬円、振興会負担金百六十四萬円で完成。昭和四十五年地或被害農民の集会の場を演習場周辺民生安定事業として実施、敷地については、土地交換し確保、事業費は防衛予算による。総事業費三千四百九十萬円その内訳は国庫補助金一千八百三十萬円、地元負担金一千六百六十萬円を以て市当局の援助により農民研修所の建設をみた。その他公共的事業として昭和四十六年までに地区内道路に一千二百六十萬円を投じ改良舗装工事を実施した。

須山簡易水道及び十里木水道工事に七百九十三萬円を助成地区民の生活の合理化を計る。須山小中学校および幼稚園の教育の充実を計るために教材等の購入費として一千二百九十四萬円を助成、防火対策事業として防火構築費四百二十七萬円を投資住民の安全を計る、須山地区鎮靈神社境内整備に八十萬円を助成、戦没者の遺徳を偲ぶ、又各種団体へ總額二千二百萬円の助成をなし各団体の育成を計った。このように須山振興会より生ずる利益はすべて地区公共事業および地区民の福利増進のために充て、地域住民齊しくその恩恵に浴することができた。この基礎を築かれた歴代の元村長

(背) 歴代村長 初代渡辺竹次郎 二代勝田房平
三代渡辺春吉 四代土屋和作 五代土屋和作
六代土屋和作 七代杉山権作 八代勝田秀作
九代渡辺春吉 十代菅沼甚作 十一代渡辺善作
十二代渡辺恵格 十三代土屋浅治 十四代土屋浅治
十五代渡辺政蔵 十六代小野田市太郎
十七代土屋嘉呂久 十八代土屋嘉呂久
十九代小野田市太郎

須山村長臨時代理者書記根上信次

歴代理事長小林秀也 遠藤佐市郎 顧問根上求馬

横山茂雄 渡辺定良 横山隆 発起人理事長渡辺勝雄

副理事長小野田旭 理事杉山詮 根上三平 杉山孝夫
宮崎恒 横山英三郎 監事手綱吉蔵 杉山保信

渡辺豊 評議員杉山正年 勝又憲明 土屋吉次

秋山由一 杉山興将 渡辺晃 坂田春一 杉山三郎

中村正敏 川口公 小野田利正 勝又一

須山地区区長会長渡辺篤治 第一区長杉山孝一

第二区長土屋翼 第四区長横山忠行 副区長渡辺一郎

根上善作 苅田幸次 横山要

碑文作者裾野市役所経済部部長渡辺日出雄

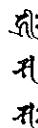
裾野市役所須山支所支所長渡辺國一

裾野市役所經濟部涉外課課長渡辺政幸

昭和四十六年十二月十三日 財團法人須山振興会

沼津市下香貫 有限会社高嶋石材店刻

別記12 順礼供養塔（西・秩）

（正）奉巡禮西國秩父供養塔

（右） 明和三年戊七月吉日 □國 土屋□兵衛 同八右衛門

渡部与左衛門 枝山□左衛門 同行四人

土屋~~圓~~八 渡部惣助 勝間田惣次郎

□平藏

土屋八右衛門 勝~~圓~~右衛門 同~~行~~武人

□~~圓~~内 渡部惣助母 枝山三右衛門内

渡部与左衛門内 土屋~~圓~~三郎内

渡部□□兵衛 真田□兵衛 横山善九郎 田代~~圓~~

別記13 馬頭觀音

（正）馬頭觀世音 大正拾四年拾壹月 須山運送組合建之

（背） 土地貳坪寄附者横山亮作 碑石寄附者 土屋鋪作

渡邊瀬 世話人 荻田仁三郎 渡邊宗作 荻田覺三郎

中村勝平 根上嶋□ 根上熊甚 杉山十太郎

高杉仁三郎 平岩清七 杉山~~圓~~蔵 杉山恒雄

杉山清吉 土屋角平 渡迢~~圓~~ 高橋勘次

渡迢彦作 前世話人 勝又吉蔵 根上彥~~圓~~

荻田太十郎 芝山清太郎 土屋萬作 土屋倉之助

別記14 碑（共有地之碑）

（正） 共有地之碑

共有地之碑 静岡縣知事正五位勲四等赤池濃篆額

須山村ノ地山間ニ僻在シ村民ノ生業或ハ製炭ニ或ハ林木ノ利ニ頼ル然ルニ其ノ西北一帯ノ地固之レ官有林ニ

圍繞セラルミヲ以テ利用ノ區域甚~~タ~~狹少未~~タ~~以テ村民

生活ノ安固ヲ期スルニ足ラサリキ時恰モ明治九年官有

地壹千有餘町歩拂下ケノ恩典還祿士族ニ下ルノ好機ニ

接ス茲ニ於テ時ノ戸長勝田三平拂下地ヲ轉賣シテ面積

ヲ擴大シ村民生活ノ基礎を鞏固ナラシムルハ蓋シ此ノ

機ヲ措キテ他ニ無カルヘシトナシ斡旋大ニ勉ム副戸長

土屋佐久太之レ~~ヲ~~輔ケ村民亦之レニ贊シ謀議忽チ一決

ス乃チ各自出資シ拂下地全部ヲ買收シテ時ノ公民百拾

三名平等ノ権利ヲ得多年ノ宿望漸ク茲ニ達セリ爾來戸

長勝田東平渡邊秀敷人民總代渡邊竹次郎杉山定次郎等

ノ管理中境界及其ノ他ノ整理ヲ為シ或ハ其ノ一部ニ植

林ヲ施シテ大ニ功アリシカ明治三十二年制ヲ改メテ共

有總代協議員ヲシテ之レカ管理ニ當ラシム買收以来其

ノ収益總額實ニ五萬圓ノ鉅額ニ達ス適々富岡村トノ組

合解カルムニ際スルヤ本村基本財産トシテ金壹萬圓ヲ

提供シ小學校々舍建築費ニ金三千圓道路改良費ニ金貳

土屋□平 大沢保雄 土屋由五郎 根上喜市

土屋真平 渡迢新吉 荻田宇平 渡迢□作 杉山林作

荻田勝雄 土屋要 須山村 石工根上東歌作

千圓ヲ寄附シ又所有權者ハ金八千圓ヲ國稅納入資金ニ

備ヘ金五千圓ヲ村稅資本三積ミ以テ納稅ノ義務ヲ安易

ナラシム斯ノ如ク本村ノ經濟ヲ援ケ各戸ノ福利ヲ得ル

ニ至ラシメシモノ一二之レ勝田三平翁以下當路者ノ公

共的努力ト村民祖先ノ丹精トニ據ラスンハアルヘカラ

ス冀クハ子々孫々永ク其ノ意思を繼承シテ厚ク之レヲ

保護シ其ノ所有權ヲ他町村ニ輪シテ之レヲ消滅セシメ

或ハ其ノ地籍ヲ分割シテ各自ノ自由ニ委スルカ如キコ

トナク團結保有以テ餘慶ヲ後昆ニ傳ヘラレンコトヲ依

テ碑ヲ建テ之レヲ表ス

静岡縣駿東郡長從七位川西實三撰

大正八年四月三日 萩州川島修天書

(背) 共有權利者總員百十三戸平等出資協力一致建碑

前共有總代 渡邊豊次郎 渡邊春吉 杉山權作

土屋平次郎 杉山常蔵 土屋淺治 渡邊惠格

菅沼甚作 土屋紋次郎 渡邊正五郎

贊助員 須山村長杉山權作 全助役土屋淺治

土屋久作 勝田秀作 土屋紋次郎 根上富作

小野田市太郎 發起人 共有總代菅沼甚作

協議員渡邊政藏 全勝田大作 全小野田利三郎

須山村區長杉山佐吉 全土屋市太郎 全土屋平次郎

石工 御殿場岩寄榮作 全須山志村松吉

(左右標石) 大正八年 四月建之

別記15 碑（防獸柵碑）

(正) 防獸柵碑

須山爲村介在富士愛鷹両山之間而往昔森林蔚蒼原草繁

茂猪鹿甚多生息其間常為群喰害農作物村民不安生葉

知幾百歲也寛政年中渡辺隼人号素山在里正職痛憂之躬

口亦繁殖村民深德之歿後立祠祭之矣後人繼其向每歲脩

理而防備百廿年餘今也已以無獸害將撤廢之乃欲速其蹟

傳于後世也 渡辺秀敷撰 大正九年七月

建設發起人 渡辺竹次郎 杉山權作 土屋久作

別記16 碑（殉難三士之墓）

(正) 殉難三士之墓

(背) 發起人 渡邊久雄 世話人 小野田乙次郎 根上治作

荻田廣蔵 杉山時次郎 杉山辰五郎 渡邊滻太郎

横山幾太郎 渡辺安太郎 杉山忠吉 荻田市太郎

渡辺恵三郎 渡辺福蔵 杉山寅蔵 根上大吉

土屋友次郎 手綱久平 慶應三年十二月二十八日殞於

十里木大正六年一月七日建石

(正) 日をひと日 富士をまともに仰ぎ来て

こよひの泊る 野のなかの村 牧水

(背) 若山牧水先生は大正九年十月九日と大正十一年五月十

四日当館に宿泊した その折の作歌を大悟法利雄先生

の指導で歌碑とした

昭和五十三年十月九日

清水館

野田達郎

別記18

道標

(正) 静岡縣廳迄里程二十一里十町 駿河國駿東郡須山村

(右) 東海道沼津驛迄里程六里十町

(左) 四麟村

東駒門新田迄 一里二十六町四十八間

西十里木新田迄 一里二十四町三十五間

南下和田村迄 一里一町四十間

(背) 北印野村迄

一里九町十六間

(背) 明治十二年七月建之

別記19

順礼供養塔 (横堂)

(台座) 奉横堂供養 享保四己亥 二月六日

土屋 平兵衛 同内方 孫右衛門 同内方

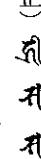
松山戈兵衛 同姉 勝亦彦衛門母 彦八母

渡口 往誉主西 同妹^口 宮橋利左衛門母

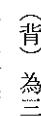
孫兵衛母 渡口 戈^口 同母 李左衛門 同内方

別記20

廻国塔

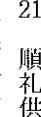
(正)  奉納六十六部供養宝塔

天下泰平國土安全 正徳五乙未歲極月四日

(台座正)  施主 秋山 土屋太^口 同内母

(右) 横山三五 土屋七左衛門 松山^口右衛門 同内 同妹

(左) 渡口^口 手綱^口 宮橋左衛門母

(正)  奉納豆駿順礼供養 爲現當一世 安樂菩薩也

(右) 享保十二丁未

(左) 六月十八日

別記22

順礼供養塔 (豆駿)

(正)  奉納豆駿順礼供養 爲現當一世 安樂菩薩也

(右) 享保十二丁未

(左) 六月十八日

須山村願主 定譽蓮心

(右)  奉納 秩父三十四ヶ所 坂東三十三ヶ所

十万宿縁一切 播靈為菩提

(左) □ 奉納 西國三十三ヶ所 四国八十八ヶ所

七世之父母 大譽説道信士 真屋清壽信女 了屋信女

(背) 為三界万靈六親眷屬菩提也

(台座正) 宝塔御宿 供養之施主須山 同所下和田 同所今里

(台座) 奉納豆駿順礼供養 爲現當一世 安樂菩薩也

(左) 秩父同行 土屋和七 勝又源藏 同人妻 根土德右門

土屋庄八 土屋^口 勝又善六 同人孫松平

土屋要右門 渡辺与左門母

(背) 文化十三丙子年五月吉日

(台座左) たき さよ

別記23

庚申塔

(正) ○ 干時寛文四天 ① 中辰六月吉日

(右) 國面鏡問 □□奇道 講□□□ 清譽淨無□

土屋茂左衛門 同□□ 同□衛門 同七左衛門

同与衛門 同善左衛門 同平左衛門 同□□衛門

同□兵衛 同□左衛門 同金左衛門 同太左衛門

□野惣衛門 勝間田□□□ 同□衛門 □衛門

中村茂□右門 同半右衛門 □□兵左衛門

□右衛門 □□□ 同彦兵衛

同四良兵衛 同金兵衛 同作兵衛 枝山德衛門

同久左衛門 同作平次 同小兵衛 石□太良兵衛

(背) 諸行無常 是生滅法 生滅々己 □滅為□ 施主敬白

別記24
順礼供養塔 (西・秩・横)

(正) 手奉巡禮西國秩父横道供養塔

天明七年九月吉日 須山村 勝又惣治良内

同八兵衛 同權七 土屋友左衛門内 同甚藏母

同庄八母 土屋半右衛門母 手綱八右衛門

渡口弥左衛門 同与右衛門母 土屋与兵衛

(左) 印野村 勝又三五良衛

下和田村 枝山定右衛門内 同長左衛門

(台座左) たき さよ

別記25

順礼供養塔 (西・横)

(正) 手奉納西國横道供養塔

(右) 勝又六右衛門 同源左衛門

(左) 宝曆七丑九月吉日

(台座右) 土屋善八母 同兵三良母 勝又庄兵衛

同八兵衛母 中村安左衛門

(台座左) 土屋平左衛門 同友八母 同由左衛門 同源六母

別記26 水神塔

(正) 美都波能賣神

(左) 明治十六年三月建之氏子中 世話人 勝又源次郎

(背) 水登波乃賣神

田向之里人此水頼資生千余歲然 土木未完 夏時冬日

或不免為干涸冰結壅過之患又 於此勝田宗次郎

改良削高陵墳淺谷數間月而初奏功 土屋喜十郎

勝又円藏亦興有功笑 干時元治元年九月

別記27 水神塔

(正) 美都波能賣神 世話人 土屋清五郎 手綱辰次郎

根上大吉 土屋由五郎 中村捨藏 中村國吉

手綱佐太郎 坂田須弥吉 土屋仙松 根上鶴吉

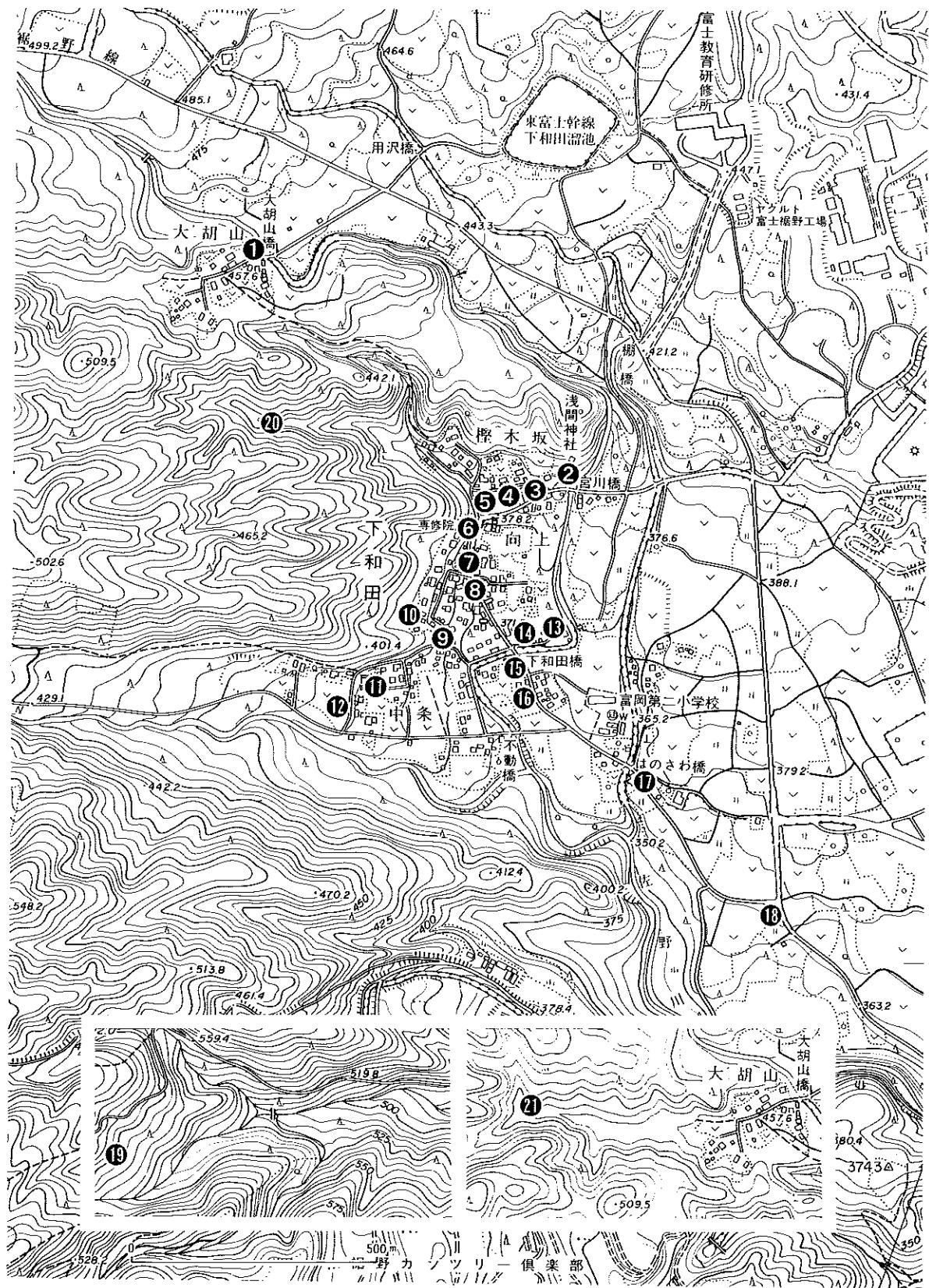
小嶋福藏 土屋萬作 勝又忠吉 根上敬治

根上新藏 根上喜市 橫山廣作

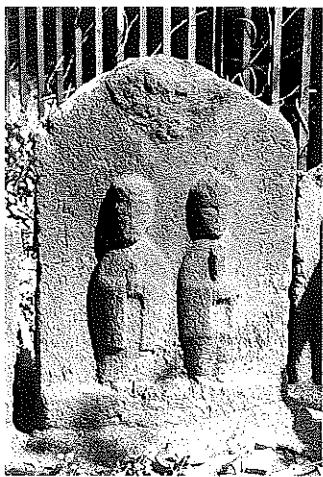
(左) 明治三十四年九月鎮座

(背) 石工 吉村勝太郎

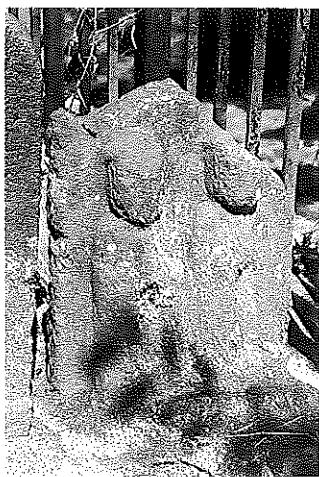
下和田地区



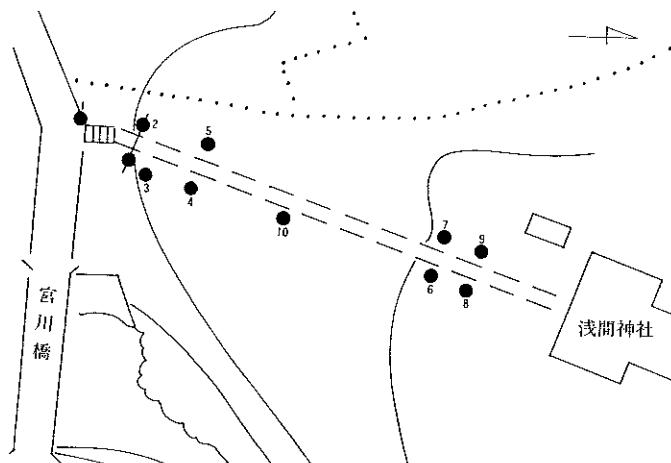
下和田地区



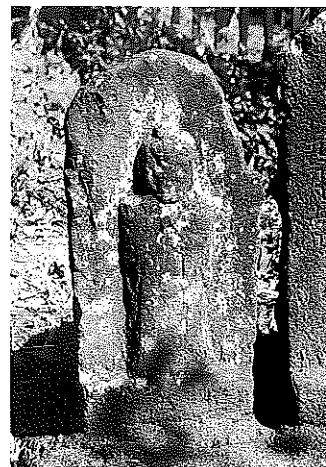
1-2 道祖神



1-1 道祖神



2 浅間神社



1-3 馬頭観音



2-2 鳥居



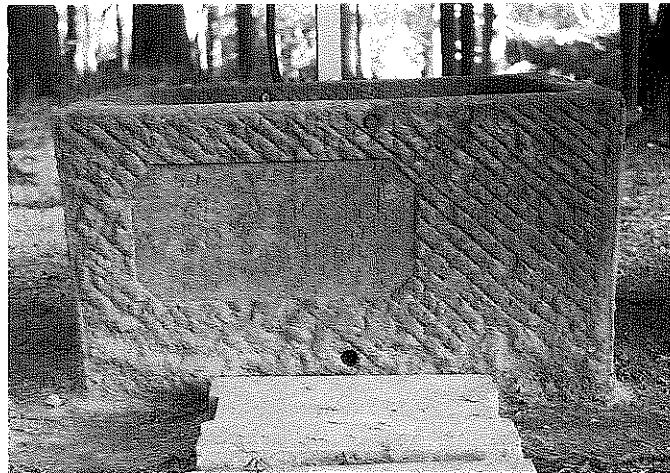
2-1 軋立



2-4 石灯籠（部分）



2-3 手洗石



2-8 手洗石



2-5 石灯籠（部分）



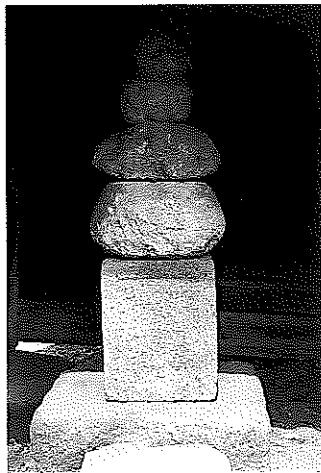
2-9 手洗石



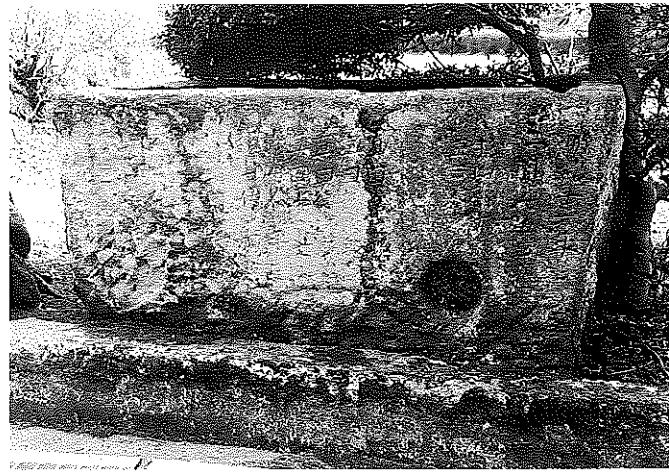
2-6 石灯籠（部分）



3 碑（非常用水奉納）



4-2 供養塔



4-1 石造物（貯水槽）



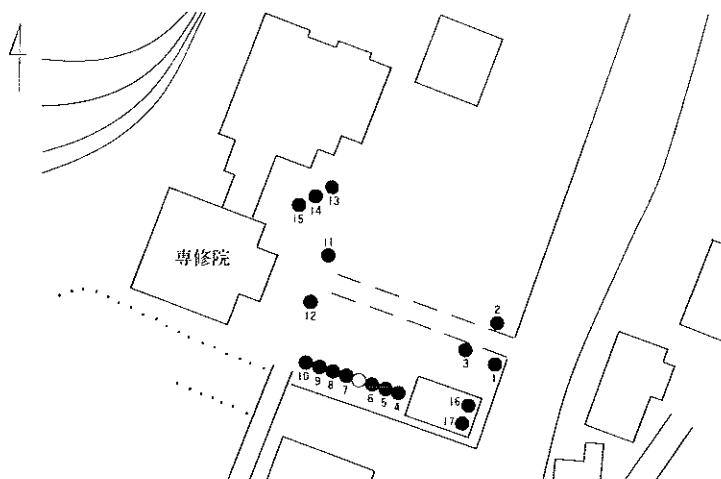
5-3 道祖神



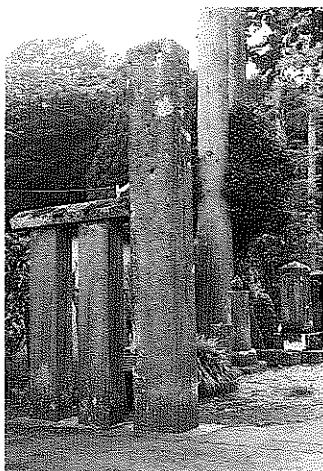
5-2 道祖神（部分）



5-1 道標（部分）



6 専修院



6-3 寺院標石



6-2 万靈塔



6-1 寺院標石



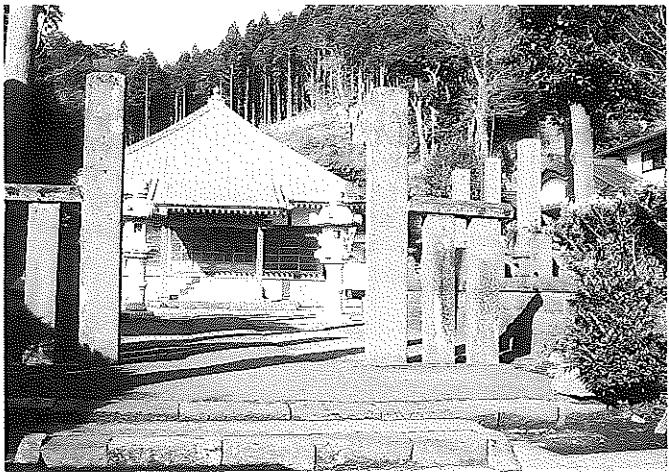
6-9 順礼供養塔(西・秩・坂・横)



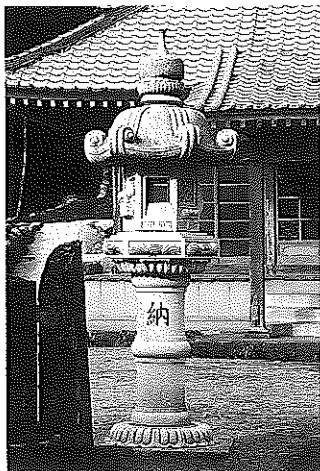
6-8 順礼供養塔(西・横)



6-7 順礼供養塔(西・秩・横)



6 専修院境内



6-11 石灯籠



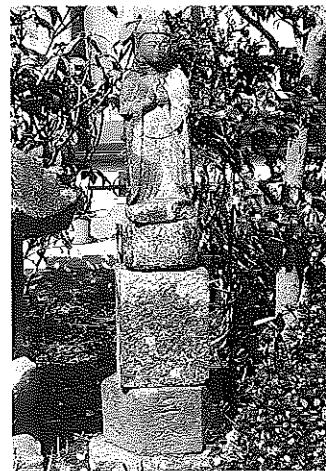
6-10 石灯籠



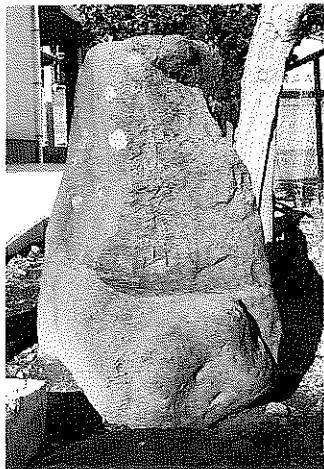
6-14 碑（法然上人記念塔）



6-13 石灯籠（部分）



6-12 順礼供養塔（横）



7 秋葉山供養塔



6-16 地藏菩薩



6-15 石幢（部分）



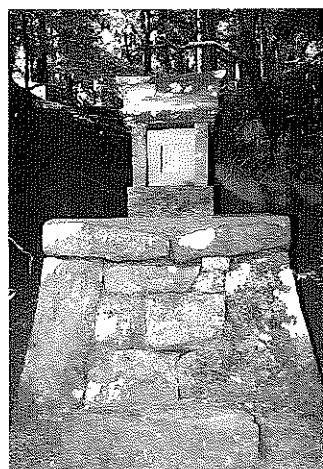
9-3 石造物（不明）



9-2 道祖神



8 馬頭觀音



10-2 諸神（愛宕神）



10-1 石燈籠



13-1 馬頭觀音



12 馬頭觀音



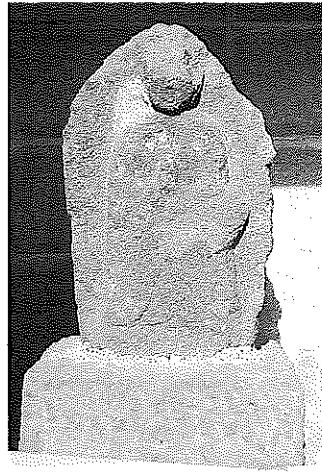
11 石燈籠（部分）



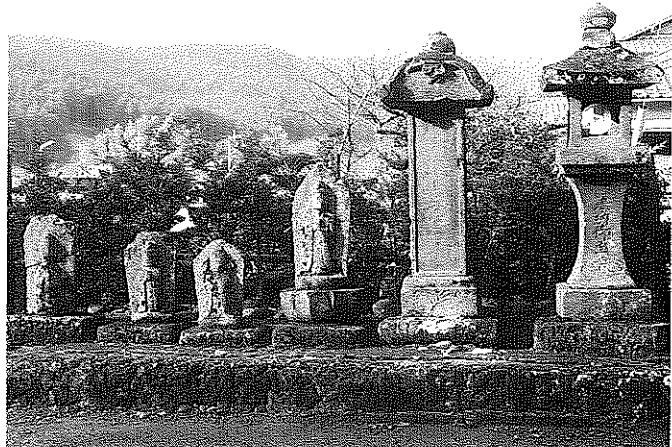
15-2 道祖神



14 馬頭觀音



13-2 馬頭觀音



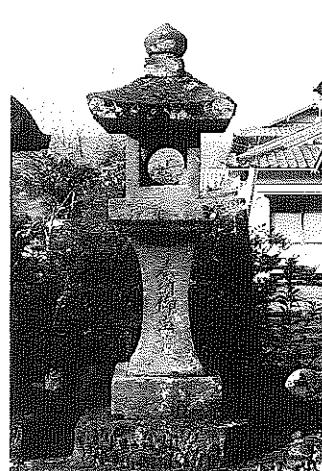
16 下和田中条



16-3 馬頭觀音



16-2 庚申塔



16-1 石燈籠



16-6 馬頭觀音



16-5 馬頭觀音



16-4 馬頭觀音



17-1 順礼供養塔（横）



17 はのさわ橋東



17-5 順礼供養塔（横）



17-4 順礼供養塔（西）



17-3 順礼供養塔（西・横）



18 道 標



17-9 順礼供養塔（西）



17-8 順礼供養塔（西）



19 龍爪神社



19-3 山の神塔（石祠）



19-2 山の神塔



19-1 石灯籠（部分）



19-5'



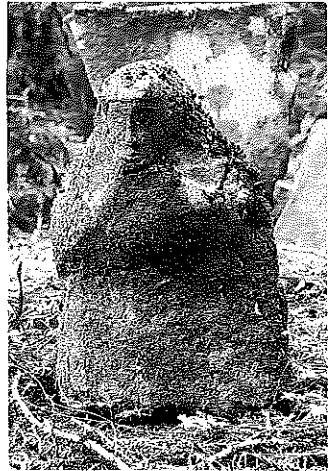
19-5 碑（龍爪社記念）



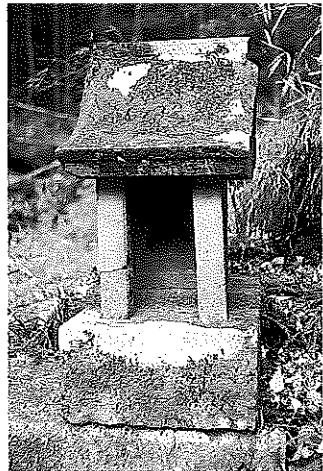
19-4 石造物（龍爪神）



19-7 庚申塔



19-6 庚申塔



21 水神塔 (石祠)



20 水神塔

下和田地区石造物一覧表

番号	種類	形状	造立年	銘文		(備考)
				(光背上部欠落・風化)		
1-1	道祖神(双体)	浮彫立像				
1-2	道祖神(双体)	駒形浮彫	寛政2(一七九〇)			
1-3	馬頭觀音	舟型立像				
2-1	蟻立					
2-2	鳥居					
2-3	明神型					
2-4	昭和63(一九八八)		大正9(一九二〇)			
2-5	石灯籠	箱型				
灯籠	灯籠					
延享1(一七四四)	延享1(一七四四)					
130×59	136×58	40×86	380×445	152×30	48×23	62×47 41×33
石灯籠	石灯籠	手洗石	嘉永7(一八五四)	(左)奉納(右)世話人當村氏子中 (左)役人名主真田長右衛門 百姓代真田甚兵衛	(正)奉納(右)世話人當村氏子中 (左)役人名主真田長右衛門 百姓代真田甚兵衛	(正)寛政二年九月吉日 (背)大正九年九月吉日之□寄付者杉山龜作 (左)奉納昭和六十三年四月吉日眞田貞一 (正面額)浅間神社 (左柱背)奉納昭和六十三年四月吉日眞田貞一 (正)奉願御寶前家内安全延享元申子年六月六日 (背)駿州下和田村松元平内 (正)奉願御寶前家内安全延享元申子年六月六日 (火袋欠落)

番号	種類	形狀	造立年	銘文	(備考)
2-6	石燈籠	燈籠	寛延3(一七五〇)	(正)奉納御寶前家内安全 (背)施主當村 真田平三郎	(火袋欠落)
2-7	石燈籠	燈籠	元禄3(一六九〇)	(正)奉寄進石燈籠御宝前 元禄三庚午年 五月廿八日 杉山茂左衛門 (宝珠・笠・火袋部欠落)	
2-8	手洗石	箱型	明治35(一九〇二)	(正)明治三十五年八月口回 飲用水槽設置者 真田欽平 全貞藏 全徳治郎 杉山煩治郎 全彌吉 設置補助者 真田熊 全林治郎 全長二郎 全治郎 杉山利作 全彌十郎	
2-9	手洗石	鉢型	宝曆7(一七五七)	(正)宝曆七丁丑十一月日 (一部欠落)	
2-10	鳥居部分			(正)非常用水 明治二十四年四月十日 上方	
3	碑(非常用水奉納)			(正)非常用水 明治三十四年四月十日 上方	
4-1	石造物(貯水槽)	箱型	明治16(一八八三)	(正)明治十六年七月十五日 世話人 杉山歳十郎 真田口次郎 真田堂一郎 真田林次郎 真田徳次郎 真田平七 杉山久平 杉山仲藏	
4-2	供養塔		元禄4(一六九一)	(正)光善粗想 右爲御也 (右)元禄四年正月廿二日 (左)施主 真田平三郎 (残存 宝鏡印塔身・基礎部 五輪塔空・風・火・水輪部)	
71×35		57×103	38×80	38×56	55×103 125×42 140×61 (cm)

番号	種類	形狀	造立年	法量(cm)	銘文(備考)
5-1	道標	自然石	(正) □右ふじ道 □丑年六月□日 真田祖八 (上部欠落)	35×27	(一部割れ目・風化)
5-2	道祖神(双体)	浮彫立像		45×41	(頭部風化)
5-3	道祖神(双体)				
5-4	道祖神(双体)	立像拔		52×46	(上部欠落)
6-1	寺院標石	自然石	平成4(一九九二)	90×63	
6-2	万靈塔	自然石	嘉永2(一八四九)	210×66	(正)萬靈塔 (背)嘉永二年五月 説鑒代 助力 當村中 若者中 (左柱正)専修院 (右柱背)寺世話人寄贈 杉本儀置 根上勇 杉山利一 (左柱背)淨土宗 (左柱背)平成四年壬申十一月吉日 二十七世了音代
6-3	寺院標石	角柱	大正7(一九一八)	190×98	(正)萬靈塔 (背)嘉永二年五月 説鑒代 助力 當村中 若者中 願主 真田利八 根上忠藏 杉山平蔵 杉山惣右衛門 杉山利右衛門 世話人 真田角左衛門 真田彌兵衛
6-4	石灯籠(部分)		(正)大正七年建造 當院二十五世 聲鑑代 石工志村松吉 (正)奉納觀音前 延享四卯 四月吉日 造立真田八衛門 (残存 宝珠・竿・竿部)	276×36	
83 × 59					

番号	種類	形狀	造立年	銘文	(備考)						
6-13	6-12	6-11	6-10	6-9	6-8	6-7	6-6	6-5	石灯籠(部分)	石灯籠(部分)	(残存 竿・基礎部)
石灯籠	順礼供養塔(横)	石灯籠	石灯籠	順礼供養塔(西・秩・坂・横)	順礼供養塔(西・秩・横堂)	順礼供養塔(西・秩・横堂)	石灯籠(部分)	石灯籠(部分)	灯籠	灯籠	(6-9の台座か)
灯籠	丸彫立像	灯籠	灯籠	山型角柱	山型角柱	山型角柱	灯籠	灯籠	貞享5(一六八八)	貞享6(一七七七)	(残存 宝珠・竿・基礎部)
			昭和62(一九八七)	昭和62(一九八七)	寛政5(一七九三)	宝曆14(一七六四)			別記1(102頁)	別記2(102頁)	
111 X 63	110 X 38	275 X 116	275 X 116	139 X 98	137 X 94	145 X 91	120 X 57	64 X 43	(cm)		
	別記5 (102頁)	(正)納 (背)昭和六十一年五月吉日	(正)奉 熱海市桃山町二〇一七 杉山作 杉山ちよ	別記4 (102頁)	(6-7の台座か)						
		(頭部欠落/聖觀音)									
		(宝珠欠損・竿部欠落)									

番号	種類	形狀	造立年	銘文	(備考)			
6-14	碑(法然上人記念塔)	自然石	大正7(一九一八)	(正)念佛元祖法然上人 (背)開示七百五十年記念塔				
6-15	石幢(部分)	单制六面	大正七年七月志主二十五世聲譽建立					
6-16	地藏菩薩	丸彫座像		(残存笠・幢身・基礎部笠部欠損)				
7	秋葉山供養塔	自然石	万延1(一八六〇)	(正)秋葉山 (背)萬延元庚申年初冬世話人 杉山利右衛門 同苗太丘衛 杉本文平				
8	馬頭觀音	自然石	昭和5(一九三〇)	(正)馬頭觀世音菩薩 (背)昭和五年十一月 杉本和十				
9-1	道祖神	自然石		(中央部割れ目・風化)				
9-2	道祖神	自然石						
9-3	石造物(不明)	自然石						
10-1	石灯籠	自然石						
114 × 42	39 × 29	57 × 44	52 × 56	57 × 32	100 × 72	63 × 47	121 × 58	法量(cm)
享保15(一七三〇)	(左)享保十五戌十一月吉日 杉山權右門 建立							

番号	種類	形狀	造立年	銘文	(備考)					
16 + 1	15 + 2	15 + 1	14	13 + 2	13 + 1	12	11	10 + 2	諸神(愛石神) 祠	寛文2(一六六二) 延享1(一七四四) (正)三全口 (左)當村火難守護神 寛文二年 一月吉日
石燈籠	道祖神(双体)	道祖神(双体)	馬頭觀音	馬頭觀音	馬頭觀音	馬頭觀音	石燈籠	灯籠	寛文2(一六六二) 延享1(一七四四) (正)奉納村中施立 (右)延享元年 (左)甲子七月吉日 (火袋欠落)	
灯 籠	立 くり 像 拔	浮影立像	舟 型	舟型立像	舟型立像	舟型立像	灯 籠	祠	寛文2(一六六二) 延享1(一七四四) (正)三全口 (左)當村火難守護神 寛文二年 一月吉日	
安永3(一七七四)			明治37(一九〇四)			明治23(一八九〇)	136 × 57	132 × 115	(正)奉納村中施立 (右)延享元年 (左)甲子七月吉日 (火袋欠落)	
171 × 67	71 × 70	63 × 29	73 × 39	61 × 34	90 × 60	56 × 42	(正)享和二年戊十一月日 村中造立 世話人 八右衛門 友右衛門 (正)明治二十三年 杉本万吉	(正)享和二年戊十一月日 村中造立 世話人 八右衛門 友右衛門 (正)明治二十三年 杉本万吉	(正)享和二年戊十一月日 村中造立 世話人 八右衛門 友右衛門 (正)明治二十三年 杉本万吉	
(正)奉納御宝前 (右)施主村中 世話人 勇介 捨藏	(左)安永三甲午五月日 (台座欠損)			(正)馬頭觀世音 明治三十七年八月六日 杉山豊平建之 (上部破損・風化)	(舟型上部欠落・風化)					

番号	種類	形狀	造立年	法量(cm)	銘文(備考)
17-4	順禮供養塔(西)	駒型	寛保1(一七四二)	75×50	(正) 刃 轉教化土靈 (合座右) 西國順禮 寛保元辛酉 □月廿五日 杉山又七 須山村土屋太兵衛
17-5	順禮供養塔(横堂)	笠付角柱	寛保10(一七二五)	150×65	別記8(103頁)
17-6	聖觀音	丸彫立像			(頭部欠落)
17-8	順禮供養塔(西)	山型角柱	寛保9(一七二四)	36×17	
17-9	順禮供養塔(西)	山型角柱	正徳3(一七一三)	97×68	(正) 刃 奉仕養西國順禮 成就 (左) 刃 為現當世 安樂菩提 (右) 寛保九甲辰 八月十八日 當村之住 枝本萬石衛門
18	道標	聖觀音			
19-1	石灯籠	丸彫座像			
19-2	山の神塔	自然石			
寶曆11(一七六二)	灯籠	寶曆11(一七六二)	43×20	44×39	別記9(103頁)
195×106	106×51		106×50	97×68	(正) 江戸鉄炮洲本湊町 紀伊國屋源兵衛 (右) 寛保十一歲 辛巳八月吉祥 (正) 山神宮 寛保十一歲 辛巳八月吉日 江戸鉄炮洲本湊町 願主 紀伊國屋源兵衛
					(火袋欠落)

番号	種類	形状	造立年	法量(cm)	銘	文	(備考)
19-3	山の神塔(石祠)	祠	享保5(一七二〇)	52×63	(正)高大原仁 (左)諸佛救世著 之術者也	神留碑讀(右)鳥悅國 現無量口力 住於大神通(背)天四海皆國 妙法後五百歲 中廣宣流布	
19-4	諸神(龍爪神)	自然石	明治10(一八七七)	66×48	(正)龍爪神社 (背)維持明治十有九年三月造建		
19-5	碑(龍爪社記念)	自然石	明治41(一九〇八)	70×54	別記10(103頁)	(一部欠落・倒壊)	
19-6	庚申塔	丸彫座像					
19-7	庚申塔	丸彫座像					
20	水神塔	自然石	昭和8(一九三三)	49×35	116×73	別記11(104頁)	
21	水神塔(石祠)	祠	明治34(一九〇一)	69×40	(正)水神宮 (背)當初依婦女子之肩運搬飲用水八町余明治二十四年三月遂布設土管ト地子 水源管水神祠謹而奉祈鄉中安全者也		

別記1 石燈籠(部分)

(正) 孫 奉造立石燈籠 貞享五戊辰年 六月十八日

同人内方 仲右衛門母 清次郎母 長右衛門内方
勇介母 おかん母 おそで

順礼人数 枝山□□□内方 杉山傳兵衛 同内方

杉山因右衛門内方 根上覚右衛門 真田甚平義母

杉山十□ 同内方 寺内 □□ 真田正國 杉山淨欣

杉山妙超

別記2 順礼供養塔(西・秩・横堂)

(正) 孫 西國三拾三所順禮

(右) 孫 秩父巡行塔

(左) 孫 橫堂供養塔

(背) 安永六酉年 八月吉日

(台座右) 西國同行施主 八左衛門母 藤左衛門母

小平治 同人内 □助 太郎左衛門母 久右衛門

茂左衛門 平□ 橫道同行 藤左衛門内

新左衛門母 園兵衛母 新藏母 小平治 仁右衛門内

(台座左) 坂東秩父同行 茂左衛門内 久右衛門母

平右衛門母 新右衛門母 奧左衛門母 万右衛門母

平八 太郎左衛門 小平治 新藏母

(台座左) 半右衛門母 平之助母 平内 同人内方 平次郎

(台座右) 同人内方 市郎右衛門 同人内方 元右衛門

別記3 順礼供養塔(西・横堂)

(正) 孫 橫堂順禮供養

(左) 西國巡行供養塔 枝山重左衛門 真田金兵衛

(背) 宝曆十四甲申年 五月吉祥日

(台座右) 平内方 お志け 平八母 小平次母 金兵衛

別記5 順礼供養塔(横)

(上段台座背) 橫道巡禮供養佛 寛保二壬戌 八月十五日

(上段台座右) 同行九人 杉山武千代 杉山和左衛門内かつ

別記4 順礼供養塔(西・秩・坂・横)

(正) 孫 奉西國三十三所巡禮供養塔

(右) 孫 橫道巡禮供養塔

(左) 孫 秩父坂東順礼供養塔

(背) 告 寛政五癸丑年 十一月初吉日

(台座右) 西國 真田久八 秩父 枝本平内 同藤八

同庄右衛門母 真田久八 同久右衛門 同十左衛門

同要藏 枝山市郎兵衛 同小平次 須山村源治郎

(台座左) 橫堂 真田八左衛門 同同人内方 同平六

同同人娘 同吉左衛門母 同傳八左衛門母

同久八内方 同音介 同同人内方 枝山惣左衛門内方

同小平娘 同同人内方 同友右衛門母

同定右衛門内方

(台座背) 枝山□左衛門内方 枝本因左衛門父

枝山才左衛門 同同人内方 同梅七

(上段台座左) 杉山平左衛門 同平左衛門内方 真田次兵衛

別記 8 順礼供養塔(横堂)

杉本甚左衛門同内 杉本□□□門 同□□□門内

(正) 丸 奉供養横堂三十三所順禮

真田八左衛門内

(右) 享保十乙巳年

(下段台座正) 牛洪
(下段台座左) 三眷

(台座左) 下和田村 枝山權右衛門内 真田与兵衛娘
枝山九兵衛母 同定右衛門母 枝本甚右衛門
同次良左衛門 同平内母 同平八内

別記 6 庚申塔

(正) ○ ○ 奉建立庚申供養石塔爲一世安樂 願主 敬白

(右) □石塔者自性待淨本寂滅之妙心三身同謡悲皆樂圓之三

覺圓也受以今月結衆等圍於庚申一座之契諸祀□現當二

世之兩國建立一本之濟都國而秘觀滅死圓滿之供養然則

壇主現世

(左) 者保松華椿葉之齡孫己長繁昌當來者證法速^ノ國樂窟廣

金一□□指掌來□也□水一見之國^ノ國^ノ之^ノ國^ノ譜共掌已

德法時同仰□生梵國仍自化法界無遮平等利益

(背) 千時 寛文九年 己酉九月晦日 信心施主 三十九人

別記 9 順礼供養塔(西)

(正) 丸 南無觀世音菩薩 奉供養西國三十三番

順礼拜願寶堂敬白

(左) 經曰 捧身光中 五道衆生 一切色相 皆於中現

(右) 告 正徳三癸巳天□五月十八日

駿筋御厨下和田村同行 真田與四兵衛 枝本元右衛門

真田長左衛門 枝本平八良 真田佐五衛門

深山村手綱平三良 謹言

別記 7 順礼供養塔(横)

(正) 奉供養橫道觀世音三十三所 順礼

享保十九甲寅天 七月初八日

(左) 枝山又七 真田与四平 枝本安左衛門 内□

枝本作右衛門 枝山祖□

(右) 枝山九平次母 真田治兵衛 娘たか 真田八左衛門内

枝山利兵衛 □地村願誓未道大德

別記 10 碑(龍爪社記念)

(正) 龍爪神社ハ杉山万治主唱ト也字ヅクウ大字共有龜内二

安置シ明治卅九年該山神社内に合社シ將來ノ維時基本
トシテ杉山畔藏氏斡旋ヲ以テ大字西有字西山七二〇番
ノ内山林若干ヲ割與セラレ講員ハ各分頭費ヲ醸出シ基
本金ヲ蓄積シ其盈益ヲ以テ祭費ニ充テントスル以所也

明治四十一年參列建之

龍爪講世話人 根上喜十郎 真田源吉 杉本元吉
杉山治三郎 同米吉 同文治 講員 杉山菊治郎
同熊藏 同柳三 同治郎作 同利作 同定吉 同萬作
同辰平 同助藏 同清作 同倉吉 同多十郎
同類次郎 同吉藏 同吉三郎 同留藏 杉本儀八
同勘藏 同久作 同庄治郎 同文平 同宇平 同康治
根上定次郎 同良平 同啓次郎 同儀三郎
真田金次郎 同文平 同謙次 同丈平 椎野安次郎
杉山重次郎 同長裕

別記
11

(正) 水神塔

(背)

昭和八年七月廿一竣工 中尾上水道布設記念

設計人 清水市 西垣雅市 鍛工 榎野 近藤榮作
石工 石脇 鳥沢重尾 組合長杉山萬作
副組合長杉山清 會計係杉山弥一郎 杉山吉三郎
杉山平作 杉山儀作 杉山金太郎 杉山直樹
杉山與左久 杉山清輝 杉山宗一 杉本固う
杉山留吉

裾野の石造物点描

下和田 龍爪神社（19）

る。下和田では山神社境内にリュウソウサンが祀られているが、宝暦二年（一七六二）に「江戸鉄砲洲本湊町紀国屋源兵衛」によつて奉納された石碑と灯籠も同境内地に建立されている。この場所は、現在では下和田の旧戸の共有地となつてゐるが、もとは「龍爪山」という龍爪講の共有地であつたという。ここでは、山神社祭礼の前後に鉄砲による的撃ちも行われていた。

（松田香代子）



左より3基目が龍爪神社の祠。山神宮の石碑と左端の灯籠が「江戸鉄砲洲本湊町紀国屋源兵衛」によって奉納されたもの。

この神社名は「りゅうそうじんじや」と読む。珍しい社名だが、これは静岡市と清水市の境に位置する龍爪山から命名されたものである。近世にはこの山中に「龍爪権現」が祀られ、農業・漁業・狩猟の守護神として広く信仰されてきた。山麓には六軒の龍爪禰宜が住んでいて、それぞれ布教の領域を持つて活動していいたといわれる。雨乞の山として近在では有名であつたが、山を見たこともない遠方の村々が龍爪の名前を知ることができたのは、このような禰宜の活躍があつたことでも一つの要因である。現在、静岡県内東部地方では、龍爪神社のことを単にリュウソウサンと呼び親しんでいる。明治の廃仏毀釈によつて権現名を廃止したため、本山の龍爪権現は穂積神社と改称したが、勧請先の村々ではそのまま龍爪神社と称している。さてこのリュウソウサンは、駿東・伊豆地方では「鉄砲の神様」として知られている。鉄砲撃ちの安全と豊猟を願うわけだが、とくに幕末から近代にかけては戦役における玉除け信仰へと転化していく時代背景があつたことも指摘されている（中村羊一郎「玉除け・微兵逃れとしての龍爪信仰」）。しかし裾野市内の龍爪神社に関しては、戦時中の弾丸除け・武運長久祈願の信仰はなかつたという。現在でも、富岡地区では獅子舞に龍爪講という講が行なわれてゐるが、鉄砲を持たない人でも講員となればこの飲食会に参加することができ

